津市商工紀要

津商工會議所發行

343
668

始

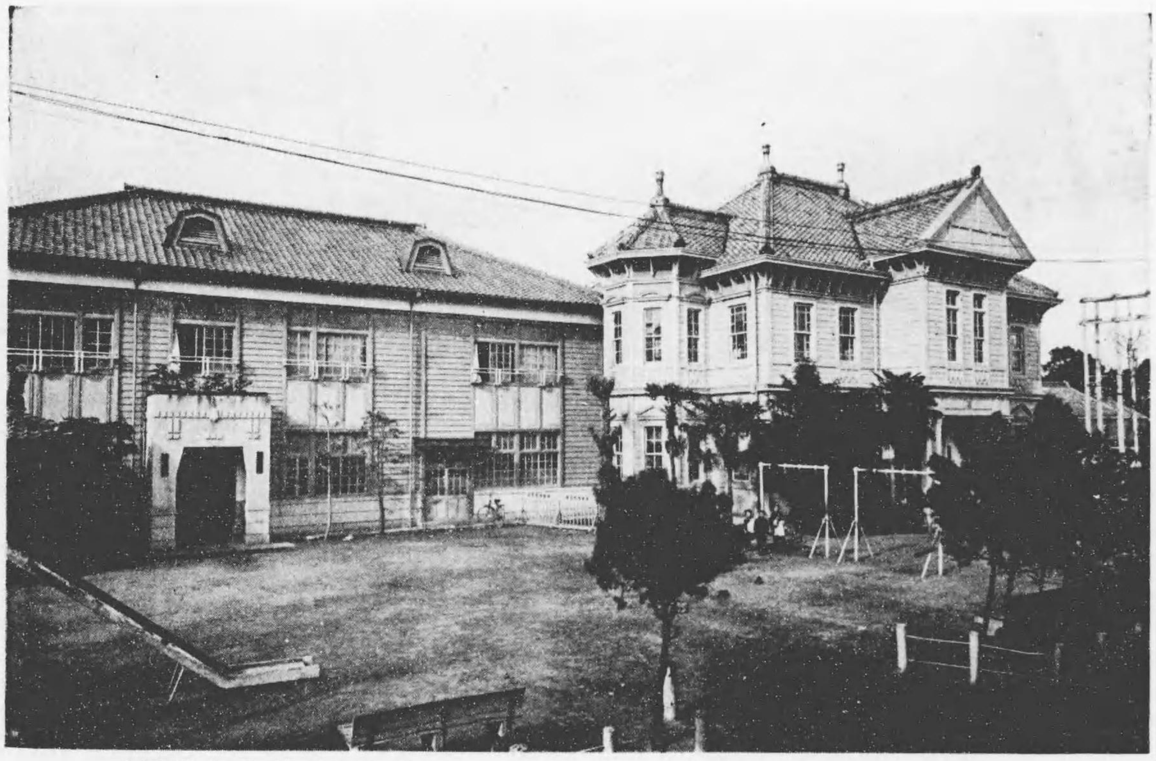
特200
415

津市商工紀要

昭和十一年版

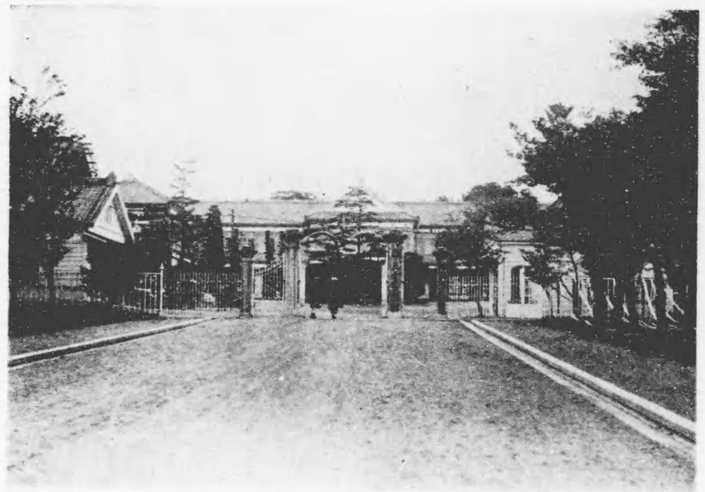
大阪市立図書

第一部　津の街市

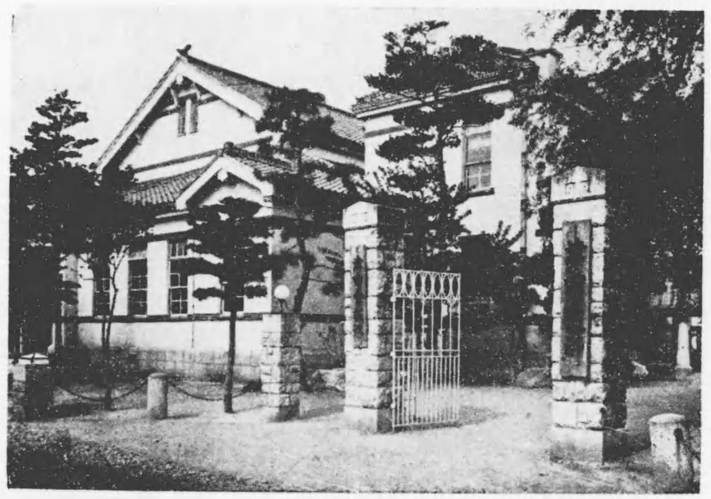


（屬附）部樂倶員店　　津商工會議所（本館）

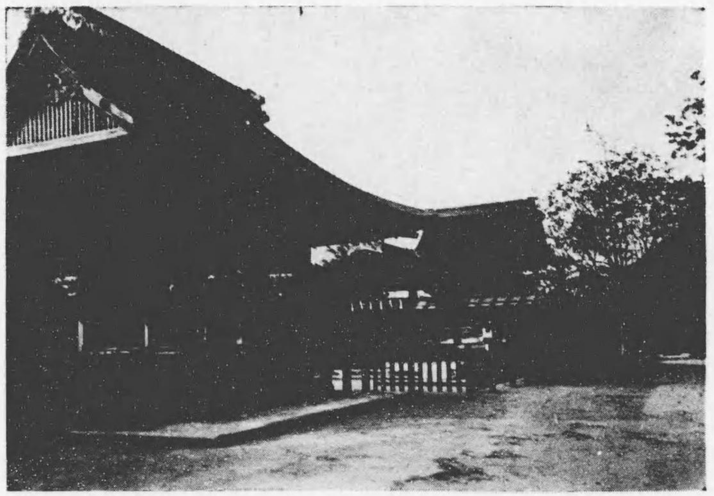
岩田橋ヨリ港津ヲ望ム



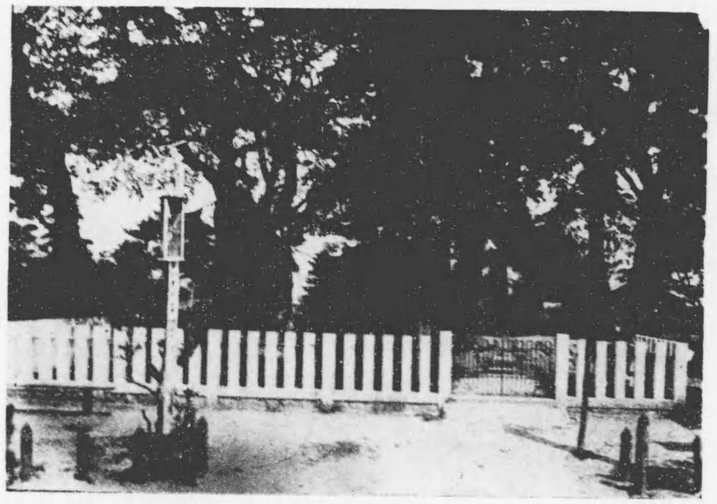
三重縣廳



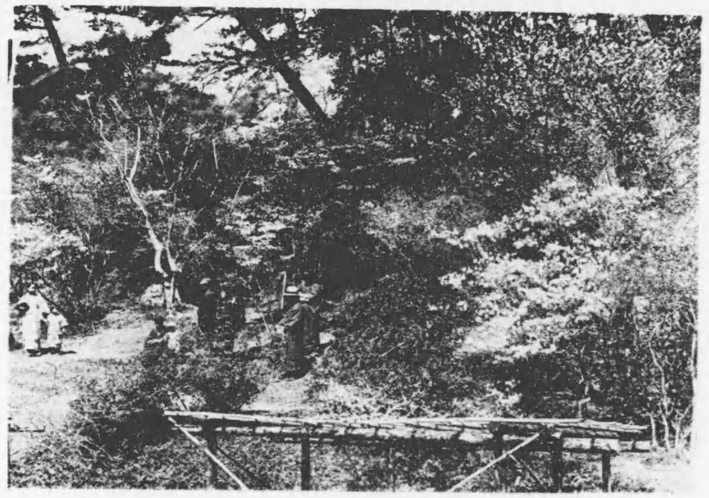
津市會議場



別格官幣社結城神社



阿　　漕　　塚



津市偕樂公園

津市觀音前

津市大門町通

津市伊豫町通

↑津市萬町通り

←大門百貨店

（物造建護保別特）寺　音　觀

（物造建護保別特）堂　陀　彌　阿

（樂漁の一唯夏初春晩）遊　漁　干　楯

浴　　水　　海

はしがき

今の「津市」を世に紹介せんが爲め本書を編纂した、其の過去の「津」を記述せるは其の沿革の因つて來る所を明にせん爲めである。

商工人名簿に載錄せるは主として昭和十年十二月現在に於ける當會議所議員選擧權者（營業收益稅額拾五圓以上）で、其他は參考として法人（有權者）、工場、組合團体、官公署、學校、公職者等をも附載した。

商工人名錄中の營業種目は努めて明確を期し、索引に便なるやう分類したのであるが、中には稱呼又は品類の如何によりて截然區別し難きものも少なからず、是等は比較的檢出し易き通俗的稱呼又は品名に從ふて分類し、又一人にして營業種目の數種に亘るものは各其部類中に收め彼此重出して其兼業を明にし、營業收益稅額（法人を除く）は左の符號に依り登載した。

拾五圓以上 ア、　貳拾圓以上 イ、　參拾圓以上 ウ、　五拾圓以上 エ、
百　圓以上 オ、　百五拾圓以上 カ、　參百圓以上 キ、　五百圓以上 ク、
八百圓以上 ケ、　千　圓以上 コ

津市商工紀要目次

〔一〕津市大觀……一
（い）位置と地勢……一
（ろ）市の戸口と財政……二
〔二〕商業……二
（い）概説……二
（ろ）金融機關……三
（は）市場……四
（に）倉庫業……五
（ほ）商工業機關……五
〔三〕工業……六
（い）概説……六
（ろ）主要物産……七
（は）工業機關……一
〔四〕交通運輸……一三
（い）鐵道……一三
（ろ）陸路と海路……一三
（は）遞信……一三
〔五〕沿革……一四
（い）津の沿革……一四
（ろ）商業の沿革……一六
（は）工業の沿革……一七
〔六〕古名匠……一九
〔七〕神社佛閣……二一
〔八〕勝地……二三

（終）

津市商工紀要

〔一〕津市大觀

(い)位置と地勢

三重縣四州の地、北に四日市市あり、南に宇治山田市あり、而して津市は此間に在りて地位を伊勢の中央に占め四州交通の要衝に當れる一縣の中樞地である、東は洋々たる伊勢灣を控へて水天髣髴の間遙に尾參の青巒を望み西は安濃郡の沃野を距てゝ伊賀の翠巒と相對し、岩田、安濃の二川市内を貫流し、志登茂川市の北端を流れ、岩田川の海に朝する處に津港ありて海路大阪名古屋を聯絡して居る。

伊勢電氣鐵道は市の東部を貫通し北は桑名町と南は宇治山田市とを聯絡し南北の交通を便にし更に北進して名古屋市と連絡すべく參宮急行電鐵の姉妹會社として關西急行電鐵株式會社創立せられ同會社によりて敷設せらるゝことゝなり來る六月より着工さるゝ筈で其の開通も近きにあり、參宮急行電車は省線津驛を起点とし一志郡中川を經て西は大阪、伊賀方面南は宇治山田市と聯絡し、南には中勢鐵道ありて市の南部と久居町及び一志郡川口との間を聯絡し、西に安濃鐵道ありて市郡の交通を便にし、市の西端には省線參宮線ありて市の南北を貫通して居る。

郊外には沃野相連り海には魚介の利あり、氣候中和にして嚴冬と雖も積雪を見ること罕である、若夫れ瀕海一帶砂白く松翠に、風光の佳勝と漁遊の快興に至つては蓋多くあらざる天惠の勝區で、海濱一帶は遠淺にして波穩に最も安全なる海水浴場として斯道識者の夙に推奬する所である。

市の廣袤は東西五、三七五米、南北七、一二五米、東西に短く南北に長く、面積一二、七八二、一三〇平方米、周圍二二、五六〇米、都市計畫事業も昭和八年度に一部着工し漸次竣工しつゝあり、昭和八年十月安濃郡新町を昭和十

一年三月安濃郡藤水村を本市に併合したり、尙其他隣接町村の併合により地域は一躍膨大して現在の四倍以上となる筈である。

(ろ) 市の戸口と財政

戸口は逐年滋蕃し市勢は駸々として膨脹を示して居る、昭和十一年三月の現在戸口は戸數一萬四千三百二十六戸人口七萬二百九十六人である。

市勢の膨脹に伴ひ財政も逐年膨脹を來し、上、下水道は今や完成したり、市は此二大事業の爲め財政は異常な膨脹を來し昭和十一年度の豫算は歳入金八拾貳萬九千四百六拾參圓、歳出經常部金四拾九萬壹千五百八圓臨時部金參拾參萬七千九百五拾五圓である。

〔二〕 商業

(い) 概說

北勢に四日市市あり、南勢は松阪市宇治山田市あり、津市は中勢に在つて地理的及政治的關係とにより、古來大体消費地として發達し來つた關係で、小賣營業者の多きは自然の勢である、その商取引關係の最も多きは名古屋大阪、東京、京都等之に亞ぎ、海陸交通の便に依つて物資の集散が行はれて居る、又近郡產出の米穀蠶繭、南勢志摩、紀伊沿海に產する魚類を呑吐して市場を賑はし、商取引の範圍は逐年進展を示すは蓋必然の趨勢であると謂はねばならぬ、昭和十年末現在の商業戸數は三千二百六戸で就中呉服太物、洋品雜貨、米穀、肥料等は各種營業中の重なるものである。

(ろ) 金融機關

【銀行】 津市の金融機關として百五銀行、三重縣農工銀行、三重共同貯蓄銀行、愛知銀行津支店、勢南銀行津支店、日本貯蓄銀行津支店、不動貯金銀行津支店の外に共融無盡株式會社及津信用組合がある何れも時運の進展に伴ひ資本の增加と共に內容の充實と基礎の確實に努力し業務の發展を示しつゝある、各銀行の市內本店の有する資本總額は貳千五拾萬圓である。

【株式會社百五銀行】 市內銀行中其創立最も古く、明治十一年十二日國立銀行として創立し、同三十年七月組織を改めて株式會社と爲し資本金五拾萬圓となりしが其後累次增資して壹千萬圓となり、縣下樞要の地並に名古屋市に支店を置く。

【株式會社三重縣農工銀行】 明治三十一年三月の創立、資本金は累次增加して現在壹千萬圓となり、縣下樞要の地に支店を置く。

【株式會社愛知銀行津支店】 本店は名古屋市に在り資本金千五百萬圓にして津支店は明治三十二年九月の設置である。

【株式會社勢南銀行津支店】 本店は宇治山田市に在り資本金貳百萬圓にして昭和三年三月津支店を設置した。

【株式會社三重共同貯蓄銀行】 大正十年十月の創立で資本金は五拾萬圓、市內大門町に本店を縣下樞要の地に代理店を置く。

【株式會社日本貯蓄銀行津支店】 本店は名古屋市に在り、資本金は貳百參拾萬圓にして津支店は明治三十二年十一月の設置である。

【株式會社不動貯金銀行津支店】 本店は東京市に在り、資本金八百萬圓にして津支店は明治四十二年二月の設置である。

【共融無盡株式會社】 大正五年六月の創立、現在資本金拾萬圓である、中流以下に必要な金融機關として無盡業法に依りて營業し、宇治山田市に支店を置く。

【有限責任津信用組合】 大正十二年三月主として中小商工業者の金融機關として産業組合法に依りて設立せられたるもので、昭和十年末現在の組合員は二千百八十八人、此出資金拾八萬貳千五百拾七圓である。

【公益質屋】 市内丸ノ内蔦町に在り昭和五年四月公益質屋法により市之を經營す融通金額は約拾貳參萬圓である

【質屋】 市内質屋業は十一戸で其融通金額は年柄に依りて增減するも大体年額參萬圓内外である。

（は）市　場

【魚市場】 魚市場は市内魚町に在り、各種營業者中最も古き歴史を有するもの丶一である、其組織は古來の習慣に依り問屋、仲買、小座の三者より成り、問屋の荷主より收むる口錢は四種に分れ種類に依りて其割合を異にし仲買の口錢は一定し、問屋が荷主に對し計算仕切の際便宜上問屋口錢と共に一時受入れ置くこと丶なつて居る、市場の取引は魚類及其他の海産物を主とし鳥獸肉其他食料品で、市場は株式會社津魚市場の經營する所である、同會社は大正元年十二月の創立にして資本金貳拾五萬圓を以て營業す、當市場に集散する魚類は主として縣下度會志摩の兩郡及紀伊沿海地方其他は尾參駿遠地方及北海道、下關、敦賀等より來るもの多く又當市場を經て伊賀、大和、近江、地方に移出せらる、其賣上高は最近年額九十五萬圓で、其開市の際の如きは一種の驩聲喧々囂々として殆ど其何たるを辨せず、市場には巨口細鱗雜然として堆く眞に是れ市廛中の一奇觀である。

【青物乾物市場】 青物乾物市場は市内入江町及片濱町に在り、前者は株式會社津青物商會で大正四年六月の創立資本金五萬圓である、後者は天春源太郎氏の經營する所で、兩市場の最近賣上高は金四拾萬圓である市場組織は魚市場と大同小異にして其口錢は青物と乾物と其歩合を異にし、問屋と仲買との計算に關する慣習は魚市場と同樣である、市場に集る品貨は尾張、三河、紀伊、大阪、京都、大和、北海道、青森地方並に近郡の生産品である。

【繭糸市場】 逐年養蠶の業著しく發達し、隣郡及北勢、伊賀、大和、紀州地方産出の繭及生糸の本市に集散するもの年々多額に上り、市内に於て之が賣買を營むもの又少からず、現に市場を開きて手廣く取引を爲す羽田繭糸問屋（丸之内本町）がある、最近一ヶ年間に於ける市場及製糸會社に集散する繭は二十六萬貫價額百三十萬圓である。此等の繭は市内市場及製糸會社の手によりて消化せらるゝ外信濃、美濃、尾張、三河等の製絲地方並に福井、金澤、京都、岐阜等の機業地に移出せらる。

（に）倉　庫　業

【津市倉庫株式會社】 明治三十二年一月の創立、資本金拾五萬圓にして石炭販賣を兼營して居る、保管貨物の主なるは米穀類で各種の貨物を通じ最近一ヶ年の總保管貨物は九千二百三十六個である。

（ほ）商　工　業　機　關

【津商工會議所】 明治十四年の頃市内有力者の發起にて商法會所を設けた是が今の津商工會議所の前身であるが設立未だ數年ならずして解散した、其後明治二十三年九月商業會議所條例の發布せらるゝに及び、前會頭川喜田四郎兵衛氏等二十九名の發起となり、時の農商務大臣の認可を得て同二十六年五月十三日始めて今の商工會議所の設立を見るに至つたのである、其後同三十五年五月商業會議所法の發布せらるゝや翌三十六年一月同法に依り組織を改めて繼續認可を得て津市商工業の重要機關となつた、現會頭は田中林助氏、副會頭は後藤仁兵衛氏である、初め議員數は二十名であつたが、昭和四年三月增員して三十一名となり、昭和八年十月安濃郡新町の併合に依り增員して三十五名となつた。

【津商工同盟會】 明治四十一年二月の創立にして事務所を津商工會議所に設けてある。現在會員數は四十五組合千二百餘名を有し市内の重なる商工業を網羅して居る。

【商工業組合】 津市に於ける商工業機關としては前記の外輸出工業組合法に依り伊勢輸出タオル工業組合、伊勢織物工業組合、伊勢醬油工業組合、三重縣瓦工業組合、商業組合法に依り三重縣蓄音器小賣商業組合、津安濃自轉車小賣商業組合、津洋服商業組合、津市肥料卸商業組合、津米穀商業組合、重要物産同業組合法に依り伊勢織物、三重縣醬油、三重縣度量衡、三重縣製絲、三重藥品賣藥等の各同業組合、其他産業組合法に依る津信用組合、三省信用組合及津縣賣組合、酒造組合法に依る中勢酒造組合及三重縣酒造組合聯合會、甑業組合法に依る三重縣甑業組合聯合會等又申合に依る呉服商組合外四十有餘の組合がある。

【津製造品輸出組合】 市内輸出品製造業者の組織に係るもので昭和十年一月の創立で組合員の製産品直輸出するものである、昭和十年中の取引先はポーランド其の他で事務所は津商工會議所内にある。

【三重縣銀行集會所】 市内觀音境内に在り、縣内同盟銀行會が大正十一年七月財團法人として設立し、所内に手形交換所を設けあり。

【津手形交換所】 三重縣銀行集會所内に在り大正十二年四月一日より交換事務を開始し昭和六年六月四日商法に依り司法大臣より指定せらる。

【勵精商業學校】 私立勵精館は明治十五年の創立にして其後大正九年三月組織を變更し三重縣勵精中學校に改め更に昭和十年三月津市に移管し中學校は勵精中學校と改稱同時に津市立勵精商業學校を創設而して中學校生徒は昭和十年度より之を募集せず現在中學校生徒の全部卒業すると同時に商業學校のみと成る計畫なり。

〔三〕工業

(い) 概說

藩政時代に於て比較的商業方面に發達した津市の工業としては多くは家内的手工業に屬し、美術工藝品の觀賞す

るに足るもの或は名産として其名を世に知られたるもの少なからざりしが、名工の衣鉢傳ふる所其什一に過ぎないのは甚だ遺憾とする所である。現に存するは美術工藝品として籠製品、土産品として茄子形團扇阿漕燒陶器、津縮子の數種に止まり、古來傳承の工業として發達し來れるは伊勢木綿及醬油清酒などである、現今に於て産額の最も多きは綿布（紡績織布、伊勢木綿、タオル）、綿糸にして最近の年産額千八百五十餘萬圓に達し市内工産品の白眉である、生絲の製造亦盛にして年額百六拾八萬圓を産す、其他清酒、醬油、漁網等亦當市の主要工産品で年々發達の績を示し工業戸數は二千百三十二戸である。要するに年柄に依りて盛衰消長あるは免れ難い所であるが漸進歩調を辿り來り基礎の堅實に培ひつゝあるは市工業の前途の爲に喜ばねばならぬ。

(ろ) 主要物産

【伊勢木綿】 伊勢木綿は古來伊勢縞の名を以て世に知られ、地質の堅牢と染色の不褪を特色とし專ら實用向を主眼したるものであるが、同業組合は時勢の推移と嗜好の變遷とに鑑み製品の修整、染織意匠の改善向上を講じ指導奬勵の結果改良の績蔵を逐ふて現はれ實質外觀共に見るべきものありて次第に聲價を加ふるに至り販路は東京、大阪、京都、近江、北海道、北越、奥羽、九州方面に及び、臺灣、朝鮮、滿洲に伸展して居る津市の主要物産の一である。最近一ヶ年の産額百九拾六萬九千弐百圓であるが同業組合の地區たる津市外三郡の産額は優に參百八拾五萬圓を超えてゐる。

【紡績綿布】 東洋紡績株式會社津工場の製織する所にして輸出向と内地向との二種あり、原料綿糸は同工場にて製産するものを使用す、工場は市内船頭町に在り、明治三十一年十月の設立にて織布事業を開始したるは同三十七年である、爾來逐年事業の擴張工場の增築を行ひ宏壯なる大工場と成り、最近年額八十三萬八千五百四十反價額七百八拾五萬圓を製産し、其規模の大にして産額の多きは縣下工業界の巨擘である。

【紡績綿糸】 岸和田紡績株式會社津工場の製産する所、工場は市内上濱町に在り、大正十五年三月の創設で最近

一ヶ年三萬八千棚價額七百七十三萬圓餘を製產し、猶進んで將來の發展に向つて事業の經營に努力しつゝあり。

【タオル】 タオル製織業の津市に起りたるは明治三十八年で三重輸出浴巾商行なるもの之を經營せしが、其後一興一廢新陳代謝を經て逐年發達して販路次第に擴展し最近年產額六十九萬四千三百二十打價格九十九萬一千七百四十圓東京、京都、大阪、名古屋等へ移出して好評あり、普通タオルの外に「**おぼろタオル**」と稱するものがある、おぼろタオル株式會社の製織する特許製品で、巧に繪模樣其他文字など表はし其意匠休裁瀟洒にして優婉なるを以て知られて居る、當市タオル業の逐年向上發展に向ふは寔に喜ぶべきことである。

【生絲】 生絲は津市主要製產品の一にして主として關西製絲株式會社の製產する所である、同會社は明治二十九年一月の創立にして現在資本金貳百八拾萬圓を有し、工場は津市の外に松阪市、一志郡高岡村伊賀上野町にあり、使用釜數千六百釜、產額四十九萬三千斤價格三百三十八萬餘圓に上る、製品の大部分は米國に輸出せられて居る、又蠶種製造部を置き桑園及飼育場を設け蠶業講習所を附設して技術者の養成と飼育法の改良普及にも努力して居る。之に次ぐ株式會社關西國用製絲所あり大正十年七月の創立にして現在資本金貳拾萬圓を有し工場は市內古河に在り使用釜數百五十五釜產額拾貳萬圓に上る。

【人造絹糸】 津市外三本松に在る三重人造絹糸株式會社に於て製造する所である。初め大正六年七月津市に岡合名會社が設立せられ、酸化銅アンモニヤ式によりて人造絹糸の製造を開始したのが津地方に於ける斯業の濫觴である、同社の事業は一時順調に進み成績良好であつたが、大正九年財界の激變に逢着し同十年の春休業の止むなきに至つた其後同十三年八月今の三重人造絹糸株式會社が其事業を繼承し次第に製品の向上と事業の發展を來し一日の產額二噸半に達し販路は主として京阪、名古屋、東京、兩毛方面に涉つて居る。

【梳毛品】 錦華毛糸株式會社工場の製產に係るものにして昭和九年一月の創設にして最近一ヶ月の生產高約拾貳磅價格貳拾八萬八千圓を製產猶進んで將來の發展に向つて事業の經營に努力しつゝあり。

【人絹織物】 人絹織物は伊勢織物株式會社及津織物株式會社其他にして最近一ヶ年の製產價額四拾四萬五千圓に

達し津市主要物產として逐年事業の擴張に努力しつゝあり。

【毛織物】 大正二年三月創立の大森織物合名會社工場並に昭和十年五月創立に係る倉敷毛織株式會社津工場の製產にして最近一ヶ年の生產高百三十萬米に達し市工業前途の爲に喜ぶべきである。

【漁網及編網機】 漁網及び編網機は內外製網株式會社の製造する所である、漁網は綿糸製蛙股絓と本目絓にして同社製編網機は動力用と自動用の二種で、この機械を以て製造し、年產額二百五十餘萬間價格六拾五萬圓で本市主要製產品の一である、販路は內地沿岸、北海道、朝鮮、南洋、北米に輸出せらる。

【清酒】 清酒釀造業者の主なるは四戶で、古きは弘化元年の創業に係り最近の年產額三千百石、價格參拾四萬千餘圓にして紀伊、近江、松阪市、宇治山田市其他の各地方へ移出し本市主要工產品の一である、津市及一志、鈴鹿、飯南三郡同業者の組織せる酒造組合ありて夙に醬油同業組合と協同設立に係る釀造研究所に依りて釀造方法の研究改良と事業の向上とを講じつゝある。（人名錄參照）

【醬油・溜・味噌】 此亦津市主要工產品の一にして釀造業者十戶あり、最近一ヶ年八萬九千五百石、價格二十六萬九千五百圓を產し縣內各地の外滋賀縣、大阪、名古屋等に販路を有す、味噌は溜釀造の副產物で年產額二十七萬九千貫、價額五萬五千四百圓である、同業組合は縣下一同を包括し中勢酒造組合と協同設立に係る釀造研究所によりて專ら釀造の向上發達に努力しつゝある。（人名錄參照）

【酢】 市內阿漕町山二造酢株式會社の製產する所で、最近一ヶ年三千三百石、價額五萬壹千七拾圓を產し縣內各地並に縣外にも移出す。

【製氷】 津市に於ける製氷事業は初め三重製氷株式會社に於て之を經營し來りしが、其後日本食料工業株式會社之を繼承し、近時冷藏事業をも兼營し逐年事業の向上を圖りつゝある、又大正十四年三月津冷藏製氷株式會社の設立を見るに至り、兩社の最近年產額三、八三七、六〇〇瓦價額參萬八千八百餘圓で、逐年需用の遞增に伴ひ產額の增加と事業發達の趨向を示して居る。

【竹製ナイフ・フォーク其他籠製品】 津市特産品の一で市内鰮堀森田庄藏氏竹製品工場の製造する所である製品の種類は竹製ナイフ、フォーク、ミートスキューア、毛糸編棒、割箸、五色箸等で年産額拾貳萬五千圓である。ナイフ、フォーク、スキューアなどは主として海外に輸出せられ、其他は概ね内地向として何れも好評あり前途益々有望と成つた。籠製品としては加藤藤昇齋の製作する花器類最も優秀にして外に聲價を有す。

【燐寸小箱木地】 松材を原料とする燐寸小箱木地は從來之を伊勢木地と稱し、大阪、神戸の燒寸製造工場に供給して聲價あり尙最近は滿洲方面へ直輸出をなす、現時製造者二戸にして年額八萬圓を產す。（人名錄參照）

【菓子及其他の物產】 菓子は未だ銘菓として弘く世に知られたるものなきも年產額參拾四萬圓、家具及指物類三十六萬圓、漆器六萬八千圓、傘四萬參千圓、靴中敷十二萬四千圓、蒲鉾其他摺物拾三萬圓、足袋四萬九千圓、履物五萬九千圓、紙器貳萬三千圓、團扇壹萬四千圓、靴五萬二千圓、筆壹萬二千圓內外を產す。

【銅器】 伊勢銅器の名を以て橫濱、神戸の外商間に知られ、製品は輸出向及內地向の二種にて從來品質の精良を以て聲價ありしが、世界大戰以來大不況に逢着して以來產額著しく減少し、現今は主として內地向の製產を爲すのみである。

【茄子形團扇】 普通團扇の外に茄子形團扇と呼ぶものあり其形樣の優雅にして瀟洒なるを特色とし、維新前より津市特產として其名を知られ普通の團扇と其趣を異にするを賞用せられ、京阪地方其他へ移出し、其產額は普通の團扇と合して年額壹萬八千圓內外である。

【あこぎ塗漆器】 古き歷史的沿革を有せざるも津市名產の一として認めらるゝは「**あこぎ塗**」漆器である、主なる製品は盆にて其模樣は舊津藩侯の紋所である葛と傳說の阿漕浦の「**やがら**」魚又は名勝安濃の松原の風景圖等の數種で製造者は市內丸之內本町の新漆器店である。

【妻楊枝】 妻楊枝の製造は明治四十四年市內下辨財町谷本捨松氏（錦盛舍）の創始する所で、製品は內外向の二種に分れ年產額七千圓內外である。

【伊勢晒】 伊勢晒は伊勢木綿と共に古くより其名を知られ木綿と消長を俱にし來つたが工業界の變遷に伴ひ明治二十年前より漸く衰運に傾き、同三十年後に至つて殆ど廢絕の姿と成つた、當市呉服商中川屋本店主之を惜みて其復興を圖り、竹村及飯田某と協同し大正元年十月匿名組合を以て伊勢晒工場を塔世川畔に設けて晒業を復興したのである、其後大正十二年一月組織を變して合資會社と爲し、堅實な營業方針を以て經營しつゝある。

【電燈・電力・瓦斯】 合同電氣株式會社の經營に係り營業所を大阪市に、本支社を津市に置く、最近市內に於ける燈數五萬六千九百六十五燈、電力千四百一キロワットを供給す、合同電氣株式會社瓦斯部を獨立し昭和五年八月合同瓦斯株式會社を創立し本社を津市に支社を縣下樞要の地に置き瓦斯の供給をして居る最近市內の使用口數五千六百五十五口供給量六七五、〇三一立方米である。

（は）工業機關

【三重縣工業試驗場】 明治四十二年四月の創設に係り、本場を津市偕樂公園前に、分場を松阪市（縣立工業學校內）に設け、本場に於ては主として染織工業松阪分場に於ては漆器、製紙、釀造等の化學工業に關する試驗研究を行ひ當業者に對して實地指導を、爲す縣設工業機關である。

【三重縣工藝協會】 本縣工藝品の改善發達並に輸出增進の目的を以て昭和九年三月の創設に係り事務所を縣工業試驗場內に置く。

【三重縣釀造研究所】 三重縣醬油同業組合と中勢酒造組合の協同設立する所で、研究所を津市偕樂公園前に設け醬油及び清酒の釀造に關して調査研究を行ひ當業者に實地の指導を爲し製品の向上を講じつゝある。

【津市立工藝學校】 實際的工業技術教育を普及して工業發達の基礎教育を施すべく、大正六年度に於て之を創設したのである、實科としては建築、木材工藝の二科に分ちて教授しつゝ毎年卒業の技術者を工業方面に送り良好の成績を示す。

【津工業研究會】 津商工會議所内に在り市内及附近の重なる工場主、工業關係者、商工會議所工業部員等にて設立し時々斯業の問題に對し研究をなす。

〔四〕交通運輸

(い) 鐵道

【省線參宮線】 名古屋、京阪方面より鐵路伊勢に入るものは參宮線亀山驛より南行、下ノ庄、一身田を經て津驛に達す、此間の行程僅に一五・四粁にして二十分餘を出でず、津驛より南三・八粁を距てゝ阿漕驛あり以て市の南北を聯絡して居る、若夫れ旅裝を津市の客舍に埋めて鐵路南行し、伊勢大神宮に參拜するには兩驛何れより僅に四二粁一時間で急行なれば四十分餘にて宇治山田市に入り、夫れより大廟を拜し了りて二見ヶ浦と鳥羽の景勝を探りて歸來するには僅に一日程を要するのみである。

【伊勢電鐵】 北勢と南勢とを聯絡するに伊勢電氣鐵道がある。桑名町より宇治山田市へ延長八二・七粁で本市内東部を貫通して居る、之れを省線亀山迂回線に比すれば八粁を短縮する、更に北進して名古屋市に聯絡すべく參宮急行電鐵株式會社の姉妹會社として關西急行電鐵が創立せられ近く開通する筈である。尚伊勢電氣鐵道株式會社は不日參宮急行電鐵株式會社に併合すべく、同社の現在桑名・大垣間は獨立の會社が設立される筈である。

【參急電車】 省線津驛を起点として一志郡中川を經て西は大阪、伊賀方面南は宇治山田市へ聯絡して居る、經營は參宮急行電鐵株式會社で本社は大阪市にある。

【中勢鐵道】 中勢鐵道株式會社の經營する中勢鐵道は津市を起点として久居町（三十三聯隊所在地）を經て一志郡川口に達する輕便線で遠からず電化する計畫である。

【安濃鐵道】 市内八町を起点とし林間及片田間を聯絡する輕便線で是亦市郡を聯絡する一線であるが阿漕驛まで

延長の計畫は未だ實現するに至らない。

(ろ) 陸路と海路

【陸路】 市の北端、市街の盡くる所は伊勢街道と伊勢別街道との追分で、大廟參拜の官道であつた舊時は勿論獨道の便なき時代には車馬行旅の往來常に繼るが如き有樣であつた、西すれば伊賀街道あり、阿漕驛を右に見て南すれば久居街道に出づ、久居町は津聯隊（歩兵第三十三聯隊）兵營の在る所である。市内の橋梁は新岩田橋、舊岩田橋、新塔世橋、舊塔世橋、極樂橋、小島橋、櫻橋、御山莊橋、江戸橋等で新岩田橋は市の中央を貫流する岩田川に架し大正十年の竣成に係り、岸頭に聳つ百五ビルディングの四層樓と相對して市坊の一美觀である。新塔世橋は安濃川に都市計畫と相俟て舊橋の下流に架設されたるもので昭和十年の竣工で舊橋は安濃川の改修に依り近く廢橋となる。

【海路】 海路は大阪商船會社汽船の定期寄港ありて大阪、名古屋、四日市間の交通運輸を便にし、又和船の去來常に絶ることなく、肥料石炭米穀及荒物雜貨等を集散する。

津港（贄崎港）は岩田川の海に朝する所に在り、港頭南北に防波堤がある、港頭に竿燈の設けありて船舶の航行を便にす、少しく河口を溯れば船溜あり之を新堀と稱す、安政六年舊藤堂藩の開鑿せし所である。

(は) 逓信

【郵便電信電話とラヂオ】 通信機關は年々著しく發達の績を示し、就中電信、電話は逐年激增し來り、設備の猶未だ之に伴はざるものあるは甚だ遺憾とする所である、市内電話の始めて開通したるは明治四十年二月で恰も第九回關西府縣聯合共進會の津市に開催せられたる二ヶ月以前であつた、現在加入者千七百六十五名逐年加入申込者增加の趨勢を示して居る。「**ラヂオ**」は大正十四年七月名古屋放送局の放送開始の際に始り現今市内に於ける聽

收者數は三千百十名にして逐月增加しつゝある。

〔五〕沿革

(い)『津』の沿革

【地名の由來】 舊記を按するに津市は往古「安濃津」又は「安乃津」とも記してある。それをいつとはなく略して一般に「津」といひならひたるは安濃の船着にて海濱の湊なりしに故なるべし、又「穴津」とも云ふは「安濃津」の轉訛で、「洞津」とは明人茅元儀が其著武備志、日本考に支那風の稱呼に書き傳へたるに因れりともいふ。

【市街と港灣】 往古の「津」の町は今の位置より東方瀕海の地即ち阿漕浦の西方津興に在つたが、今を距る凡四百三十年前の明應年間（御土御門天皇の御宇）大地震と大海嘯並起りて瀕海の地一朝にして陷沒蒼海と化した爲め海波の難を避けて今の地に移つたのであると傳ふ（今猶津興の田圃中に當時の字名を存す）古史に所謂日本三津の一として其名を知れたる「安濃津の港」は今の岩田川口を稱したのではなく、津興の東方阿漕浦に在りしと云はれて居る、（阿漕浦の沿岸に「元口」と稱する處は元の津口であると傳ふ）舊記を按するに安濃松原の阿漕浦にて岐るゝ所、一帶の白砂青松徐に彎曲して遙に海中に突出で、南は雲津の崎と相對して南北より抱擁する處、其狀恰も囊口の如きもの即ち安濃津の港で、水深くして波靜かなる天然の良港灣であつたが、惜かな明應の大震災の爲め洪波澎湃として襲來り、風光明媚の「安濃の松原」を沈め、堆砂流れ來りて碧灣を埋め沿海一帶遠淺となりて安濃津の港は跡形もなく消去せたのであると云ひ傳ふ、阪十佛の伊勢大神宮參詣記（康永元年十月の紀行）に「伊勢の國安濃津と申す所に着きて侍りし程に（中略）此津は江めぐり浦遙かにして往來の舟人の月に漕く聲云々」と記しあり以て明應震災以前の津の港が今の如き川口でなかつたことを首肯せらるゝであらう。

【發達の經路】 上古の「津」に關しては載籍詳ならざるも稍其狀態の一班を髣髴するに足るものないではない、

蓋「津」の有したる天然の良港灣は古の「津」を發達せしめた一大動力であつた、若この天惠微りせば「津」は伊勢街道中の一寒驛として纔に道中記に其名の留たるに過ぎなかつたであらう、和銅風土記「安濃津」の條を見るに仁德天皇三年に三津を定む其一なり、夷方の蠻船本邦公私の着船湊入の船客此に來りて其風雲を待つ擧國の名湊なり、國府を去ること二百二十里富饒德有の地なり、驛宿を准し公穀其三の二を減す云々」と記せり、之に因りて之を考ふるに當時の「津」は天然の良港を控えて東海徂萊の船常に絶ゆることなく行旅の來往も亦少なからざりし海陸交通の要驛であつたことが朧氣に想像し得らる。「津」は天延貞元即ち今を距ること千年以前には安濃津三郎平貞衡、清衡、正盛、忠盛等平氏の累代治府を置て居を擇へたる地で城壘は永錄年間時の領主細野壹岐守藤敦の始めて築造せし所である、其後織田信昌、信兼等相次で此地を領有した、此時代に於ける狀態は審かでないが慶長の初富田信濃守知信の城主であつた時代には市廛繁榮して城市の地域も亦廣きを加へ伽藍堂塔輪奐の美觀るべきものあつたと云ふ、惜かな慶長五年關ヶ原勢の攻むる所となり城下は修羅の巷と化して一蹶復起つ能はざる慘狀を呈した、而して「津」が此死地より復活して新生面を開くに至りたるは藤堂氏移封の後である、慶長十三年津藩祖藤堂和泉守高虎の封を承けて伊豫より移りたる當時は恰も兵燹の後を承けて城下荒寥商賈衰憊し民戸僅に五百に滿たなかつたといふ、亦以て其衰殘の一班を推知し得らるゝであらう。

藩祖移封後の「津」は政治的勢力の振張、撫民興產の政漸次其緒に就くに伴ひ遠近子來して民口の滋蕃と共に兵亂の創痍次第に癒えて活力を回復し、市廛は面目を一新して商業は兵亂以前に比して迥に繁榮を來した此時代は津の商業の復興期であるが其取引範圍は猶狹小にして市隣の町村に止り、遠く地方地域を有せなかつた、夫れより逐年地域も擴大して殷賑を加へ寛永時代に至る頃には本綿商が進みて販路を江戸に開拓し、更に東北奥羽地方に及び富商豪賈が木綿問屋の暖簾を揭げ實力を以て江戸の商界に重きを爲したのは實に此時代であつた、所謂江戸大傳馬町の伊勢店として今猶其名を知られて居るのが即ちそれである、爾來藩政善く整ふて文教振ひ武備修り大賈小商悉を駢べ市坊は益々殷賑となり居然として東海の雄鎭、伊勢の名邑として其名を俚謠に歌はるゝに至つ

たのである、之を要するに明治維新後の社會狀態の變轉、交通の便開けてより時に消長のないではないが、一言以て之を蔽へば秩序的に穩健なる發達の經路を辿り、今日に至つたのである。

「津」は舊安濃郡に屬したのであるが明治二十二年五月同郡を離れて獨立し始めて市制を布き津市と稱した。

(ろ) 商業の沿革

【銀行其他金融機關】 明治維新前に於ける金融機關は頗る幼稚にして三十五萬石の城下總に藏屋(藩士の知行扶持米を擔保として年中の諸費を立替へ俸祿受領の際之を賣却して元利の決濟を爲すもの)質屋、銀札引換所、小引換所並に一戸の兩替店があつたのみで、維新後に至つて漸く一兩替店を加へたのであつた、其後國立銀行の各地に設置せらるゝに及び始めて第百五國立銀行(資本金八萬圓)の設立を見るに至つた、是實に明治十一年十二月で今の株式會社百五銀行の前身である、其後明治二十七年三月津農商銀行、同二十九年九月伊勢銀行相尋で起り、同三十年十二月特殊銀行として三重縣農工銀行の設立あり、同四十二年伊勢銀行は不幸にして解散した、又同三十年九月四日市銀行の支店開設に次で同三十二年九月愛知銀行支店、同四十二年二月不動貯金銀行、昭和二年三月津農商銀行は四日市銀行と合併したるも昭和七年三月不幸にして本店休業し續て當支店も閉鎖するの餘義なきに至つた、昭和三年三月勢南銀行亦其支店を置き、各銀行とも逐年發展向上を來した、又大正五年六月共融無盡株式會社、同十二年三月には津信用組合など一種の金融機關として設置せられ中産以下の爲めに更に金融の便を開くに至つた。

【正米市場】 津市新東町に在り昭和八年十二月商工大臣の認可を得て設立し同九年一月業務を開始したり、同市は毎日二回入札の方法に依るものにして、業務開始以來日淺きも日々相當數量の取引行はれつゝあり。

【魚市場】 魚市場(市内魚町)の創設は遠く元祿以前に在るも其年代詳かでない、始めは九戸の魚問屋があつて魚市場を開いて居たが、元祿の頃より三戸に制限せられ新に同業を營むことを許されず、仲買の問屋に對する代

金の支拂を延滯する時は營業停止若くは追放を命する等の嚴重なる制裁を設けて市場を保護し、問屋よりは賃租として賣上高の百分の一を藩廳に納めしめたが、明治維新と共に問屋に對する此特典は自然消滅に歸した、維新前には賣留と稱し、毎年十二月二十六日限りにて問物の賣買を停止した、現今の株式組織以前には問屋は三戸にして二戸(辻彦作、岡藤左衛門兩家)は元祿以前より知られたる老舗で、一戸(羽田吉太郎氏)は明治二十年の開業に係り之を三鱗組合と稱して營業したのである。

【青物乾物市場】 入江町の青物乾物市場は明治四年芝原七右衛門氏の創設で今の株式會社津青物商會の前身である、片濱町に在る㊋青物市場は天春源太郎氏の經營する所である。

(は) 工業の沿革

【伊勢木綿】 古來伊勢縞と稱し、津市及び安濃、河藝、鈴鹿の三郡にて製織する絹綿交織で、其起原は遠く文祿の昔に在る、文祿の初め棉種の本邦に傳はるや安濃郡の農村に於て之を栽培し、績糸となして製織したるに始り爾來農家の副業として漸次に發達し、伊勢晒と共に其名を遠近に知らるゝに至つたが、其舊來の面目を一新し商品の目的を以て製織するに至つたのは慶長以後である、其後津藩より勃儉令出て絹布の着用を禁ぜられたる爲め爾來綿布の需用を增進し慶應年代迄は盛に製織した、明治の初年戰亂の爲め打擊を蒙つたが、其後次第に衰勢を回復し七八年の交に至りて絹綿交織を始めた、伊勢縞糸入なるもの即是である、爾來幾次の變遷消長を經て伊勢縞の聲價漸く揚り產額歲と俱に增進した、明治三十六年十月津市外三郡を地區とせる伊勢織物同業組合設立以來組合証紙の織込、製品の檢査を勵行して粗製濫造を戒め、不正品の賣買を取締ると同時に、種々向上的施設を以て品質の改良販路の擴張に努めつゝ現今に至つた。

【津縞子】 古來津市の名產として其名を知られたものに津縞子がある、元は麻織にして津市の西隣安濃郡清水、内田の諸村で製織したもので、其起原は審かでない、文祿三年時の領主羽柴下總守より清水村の貢米增課を命ぜ

られた際其代償として綟子織を同村の特産たることを免許せられし以來隣邑にても製織せしものをも同村にて練製染色して之を津の町に販賣した、後慶長十三年藩祖移封以來藩侯より毎年恒例として之を朝廷及幕府へ献上することに成て居た、其後麻織の外に綿織及絹織も製産せられ、明治維新前後までは羽織肩衣蚊帳等其用途少なからざりしが、時代好尚の變遷に次第に其用途を失ひて自ら衰退を來し纔に津特産の俤を織物界に留むるのみである。

【銅器】 天正寛永年間（三百年—三百五十餘年）市内釜屋町に居住した辻越後守と云ふ鑄物師は斯道の名匠で其子但馬守及越後守も亦鑄造の妙手であつた、其作る所の釜は「**伊勢釜**」と稱し今猶好古家の珍重する所のもので津市に於ける銅器製作の濫觴である。

由來津市にて製作する銅器の製法は蠟形及總形の二様あり、前者明治九年當市の骨董商若林吉兵衛（釜吉）が京都の鑄工にして當時同店に身を寄せたる平井安兵衛なる者に資を給して製作せしめたるに始り、時の縣令岩村氏の推輓と相俟ちて斯業發達の基礎を爲したのである、後者は今の鑄造者黄地直次郎氏が明治十七年始て製鑄し其後二十三年前記鑄工の後を承けて品質の精良と販路の擴張に努め、又釜吉の後嗣若林はやは明治二十四年頃より先代の遺業を紹き製作上に苦心する所あり外國商館と取引を爲し、兩者相俟ちて其製品は中外の好評を博し「**伊勢銅器**」の名は輸出品として弘く外商の間に知らるゝに至つたが其後釜吉の廢業と共に主として内地向製品となり産額の減少を來した。

【阿漕燒陶器】 萬古燒の陶祖沼浪弄山の弟に瑞牙といへる人が寛保年間（凡百八十五年前）製陶を以て津藩に聘せられ、陶土を安東の山（今の安濃郡安東村觀音寺）に取て製陶を始めた。是れが「**安東燒**」の濫觴である。其法弄山より出てゝ別に一家を成し其形古雅にして質亦實用に適するを以て、當時意を興産に用ゐたる津藩廳は其製陶を奬勵し支舗を東都に開いて弘く之を世に發售せしめてから愛陶家の之を賞用するもの多かつたといふ、其後故ありて竟に之を廢絶した（或は云ふ公儀に對し陶名を忌み憚りて閉窯したるなりとも傳ふ）此古陶の今に存

するもの少く好陶家之を珍重し値も亦甚だ高くなつた、嘉永二年の頃倉田久八なる人業を長崎の陶師寶山藤朔に受け、新に窯を開き之が再興を企てしも製品意に適せず、更に京都松風亭の陶法を學び同六年始めて松風亭安東燒を製出した、又別に陶土を半田山に取り之に阿漕浦の鉄砂を錬合して製陶し眞鍮線を以て各種の象眼を施し之を象眼燒と稱した、其製法蓋七寶燒に類して居る、而して其窯の阿漕に在りたる故を以て又呼んで「**阿燒漕**」とも稱した、弄山萬古より挨骨脱胎せる安東燒は此の如くにして發達したるも惜哉後繼者其人を得す象眼燒發達の新嫩は中道にして枯凋し爾來專ら松風亭の陶法を襲ふて之を製作した、今の所謂「**阿漕燒**」とは即是れである。明治三十二年阿漕燒陶器株式會社起りて一時盛に製造したが社業振はずして經營意の如くならず明治三十六年九月終に解散した、爾來後繼者を替ふること再三、市内素封家田中治郎左衛門氏の後援に頼つて開窯した重富製陶所も亦前轍を履み經營意の如くならずして休窯したのは遺憾である。

【茄子形團扇】 文政年間津藩士別所安連なる人公仕の餘暇同好者の爲に之を創製するや、其質堅牢にして兼て雅趣あるを以て大に同好者の賞用する所となり、藩侯も亦特に命して之を作らしめ、之を幕府及諸侯へ贈進られてから、好評嘖々之が製作を囑するもの多かつたが公暇の餘業であるから遍く江湖の需めに應ずることが出來なかつた、明治維新後に至り公然同家に於て其業を營み之を製造販賣した、「**茄子形團扇**」の名此れより漸く遠近に知られ土産物として賣行少なからず、其後市内の團扇舗に於ても亦之に倣ふて製造するに至つた。

〔六〕古名匠

古來津には名工鉅匠の傳ふべきもの一二に止まらないが、惜むらくは記錄の微すべきもの鮮く纔に古記の一部と口碑傳説に其事歴の一班を髣髴するのみである、鑄工辻越後守父子、籠師良々齋、彫刻家岷江等の如き即それである。蓋吾津の美術工藝史を飾るべき此等名匠の事歴を傳へて置かなければ其作品の散逸亡損と共に事歴竟に湮

滅して其名も亦世に没れらるゝに至らんことを恐れる、乃ち之を遺老の言に聽き日碑傳說に稽へ或は記錄の斷篇を探りて得たる所のものを捕綴して之を左に錄す、是固より其片影を提へたるに過ぎないから他日資料を得て更に之を補正する積りである。

【鑄物師辻越後守・但馬守・越後守】 辻越後守家種は本邦鑄工の棟梁にして晩年薙髮して誓任と號した天正の頃より津に來りて今の釜屋町に居住して（釜師の居住せし所であるから此稱ありといふ）、嘗て夫の京都大佛殿の巨鐘を鑄造して名を博し、又豊太閤の愛好品として好古家の垂涎して措さる「**手取釜**」は越後が太閤の命を奉じて畸人栗田口善輔の愛用せし茶釜を摸造したものであるといふ、越後の二子但馬守吉種及び越後守重種亦善く父の衣鉢を傳へて鑄造に妙を得、其作る所の釜は世に之を「**伊勢釜**」と稱して賞玩せられた又但馬は時の藩侯大通公の命により一丈二尺四方の大水盤を箕手山（今の市立病院の在る處）に於て鑄造したことがある、今猶岩田橋の欄干に存置する擬寶珠は寛永十二年橋梁架替の際越後守の製作せし所で古色蒼然として昔を語る恰好の記念物である。

【籠師芦々齋】 芦々齋姓は小林、初代兵藏、二代竹次郎、三代を角之助と云ひ代々も決して溢美ではない相承けて籠の名手であつた、殊に初代の如きは其入神の妙技に於て蓋天下名匠たりと謂ふ、三代歿後其未亡人に依りて纔に其衣鉢を傳へて來たが、惜哉今や其傳統幾と絶え初代芦々齋の作品の如きは次第に散逸して少く其價益々高い。初代の妙技の非凡であつた一例としての傳說に、初代芦々齋大阪の畫家蕉葭堂（木村孫巽齋）と交あり蕉葭堂一日大扇參拜の途次芦民齋を訪ふ、其着する所の羽織籠製にして極めて精巧であつた、芦民齋之を借受け、二枚に割き放して元の同一の羽織を作り厚く謝して兩つながら之を返した蕉葭之を見て驚嘆措かざりしといふ、是固より一傳說に過ぎないが其非凡の天才を有する名手として當時重きを爲したることを首肯される、芦民齋の製作に用ふる煤色竹の着色法は初代の苦心研究の結果に成れる家傳の秘法として代々之を傳へたといふ。

【彫刻家峨江】 田中峨江名は惇德、通稱を藤左衛門といふ、津藩士にして弓馬の餘技として頗る木彫の技に長した、殊に根付の彫刻は其最も得意とする所で其技精妙巧緻眞に入神の慨がある、其最も多く刻したるは動物果實にして物々皆生動するの趣がある、殊に達磨の如きは赤眼金眼轉々廻動するが如き又道成寺鐘の根付の如きは此種彫刻中精緻を極めたる名作なりと云はれて居る、峨江の名世に喧傳するや、四方之を喝するもの多く當時既に其名を冒して贋作したものがあつた位である、峨江又興到りて繪畫を作りしことあり氣韻風格亦一種の雅趣あつて筆致蕭白に似た所がある、文化十三年八月八十二歳の壽を以て逝いた。

【彫金家旦齋】 彫金の名匠にして殊に矢立の製作に妙を得た、技工の精妙と雅趣があるので今尙文房の珍として賞玩せらる、且齋又興到つて詩歌俳句を作る、罕に其遺墨を見ることがある。

〔七〕神社佛閣

【別格官幣社結神城社】 市坊の南、八幡町の盡る所、左折すれば一路靑松、行くこと町餘にして松栢森々として鬱茂するは結城の森にして、別格官幣社結城神社の鎭座する所である、祭神は南朝の忠臣結城宗廣朝臣で、其子親光朝臣及び殉難將士の靈を配祀してある、祠殿の傍にある一大墓碑は公の忠魂の永へに眠る所である。碑の高さ一丈三尺餘題して「**結城神君之墓**」といふ、往昔此墓側に一小祠あり結城明神と稱した、文政七年時の藩侯藤堂高兌公（誠總院）深く公の誠忠大節を欽仰し其祠宇を修め碑を立て、親ら其表に題署し、儒臣津阪東陽をして公の偉勳を碑陰に勒せしめた、明治維新後神殿漸く荒敗するや川口常文氏（後の宮司）之を慨し、朝野の間に奔走して大に墳墓を修拓し新に神殿を造營し輪奐全く觀を改めた、明治十三年聖駕西狩して公の精忠を追賞して祭粢を賜ひ、尋で十五年一月特に別格官幣社に列せられた、毎歳五月一日例祭を行ふ、史を按ずるに、延元三年九月公再び北畠顯信卿と共に義良親王に奉じ、奥州に下り義兵を糾合して天下を恢復するの雄圖を懷き、海路伊勢の大湊を發し伊豆崎に至りて颶風暴かに起るに會ふて一行と相失ひ、海に漂ふこと七日吹流されて吾が安濃津に

漂着し順風を俟つこと旬餘、不幸にして疾に嬰り千秋の恨を呑み切齒劍を按して遂に瞑せりと傳へられて居る。

【八幡神社】 結城神社に隣りて縣社八幡神社がある、祠廟社殿丹碧燦然として神々し、毎歲秋季の津市大祭には各町より山車を練出し、餘興賑かに遠近來觀するもの頗る多い。

【高山神社】 縣社高山神社は丸之内本丸舊城趾内に在る。津藩祖藤堂高虎公の靈を祀る、毎歲四月十月例祭を行ふ。

【惠日山觀音寺】 市の中央、大門町に在り、眞言宗にして正觀音を本尊とする勅願建立の名刹である、慶長五年兵燹に罹り其の十八年時の藩侯藤堂高虎公が之を再建したといふ、仁王門に入れば觀音堂あり、堂宇宏壯隆然として聳ゆ、本堂を周りて阿彌陀堂、辨天祠、祇園祠其他の諸堂があり、寺坊數院亦其傍に連る、此寺は伊勢三十三ヶ所の第十四番として巡拜者の隨喜する所である、國府阿彌陀も亦觀音と與に其名世に高く、賽者常に絶ゆることなし、境内は市人遊樂の區で、劇場あり、寄席あり、活動寫眞常設館あり、露店小肆もあつて客を引き、盛夏の候最も雜鬧を極む、商工會議所及銀行集會所も亦此境内に在る。

【塔世山四天王寺】 橋北榮町に在り、曹洞宗の古刹にして聖德太子の建立せる東四天王寺と稱せし名伽藍であつたが兵燹の厄に會ひて堂塔悉く烏有に歸した、久安三年（七百八十餘年前）再建し永祿八年又兵燹に罹つた、後元和年間藤堂高虎公之を再建したりといふ、今の本堂即ち夫れである、境内に藥師堂辨天祠及稻荷祠等がある、藥師堂は水祿兵燹の厄を免かれたる本市寺院中最古の堂宇で保護建造物の一である、寺寶として同寺に傳れるものゝ内にて國寶と定められて居る佛像は本尊藥師如來像（傳敎大師作）外五躰其他聖德太子畫像（自畫賛）藤堂高虎公室久芳院畫像及民部省圖牒及士女貢進狀（康平年中のもの）等古書畫古文書を什藏す、境内古寂幽閑、塵外の想がある。

〔八〕 勝地

【偕樂公園】 津停車場の西數町丘陵の起伏する所に偕樂公園がある、舊此地を廣明の里と呼び藩侯の政暇逸豫の遊苑として、安政年間江戸染井の別墅より珍石奇木を齎して修造せしめ、花木泉石整然として布置し臺榭樓閣山に躍し池に臨み山海の勝を此一區に收めた、明治維新後一旦その荒廢に歸せんとするや、明治十年時の岩村縣令之を惜み請ふて三重縣公園と爲し、爾來石井知事を經て漸次修理を施し、後更に移して津市の公園となつた。園に梅櫻あり躑躅楊樹あり、池頭の古藤、架に倚りて水を掩ひ、春色秋景最も宜しく、夏は綠陰冬は雪景四時俱に景趣に富む、園の最も高き處に象觀亭がある俗に之を傘の臺といふ、其東北、山開ける處展望最も佳にして安濃浦の風光は坐して之を双眸の中に收むるを得べく、更に遠く眸を於てば、煙波縹緲の間、遙に勢海を距てゝ參尾の翠黛を浮べ、眼界豁然として騁望殊に快である。

廣明館は舊藩侯謫居の所にして、其洋室は明治四十年第九回關西府縣聯合共進會當時の建築に係り、大正天皇の東宮にましませしとき御駐泊の榮を荷ふこと前後二回、館内に安濃津倶樂部あり和洋の割烹を爲す。

停車場より公園に入る右方に華表の儼として神殿の聳ゆるは縣社招魂社で、其西に在るは武德殿である。節を公園に曳くものは、歸路密藏院山に登臨するも亦一興である、山は自由と稱し、公園に近く其東麓に停車場がある山は小なるも樹石幽趣、眺望の快亦公園に勝を讓らず、山上に小寺あり密藏院といふ、山を繞り八十八箇所の靈場に擬するものがある、月の二十一日賽者歩を接し、香煙絶えず、亦塵外の勝區である。

【阿漕浦—阿漕塚】 幾代詩人の唫囊に入り院本謠曲に謠はれて其名の人口に膾炙する阿漕浦は、津市の東海岸にして岩田河口の以南一帶の清渚を指して云ふのである。俚俗の傳ふる所によれば、此海面は古昔大廟御贄調進の漁場にして、病親の爲に禁魚の制を犯せし孝子阿漕平次を簀卷となして沈めたるは此浦なりと傳へられて居る。此瀕海一帶松翠に砂明かに渚清くして遠く、征帆歸舟煙波縹緲の間を徂徠し、尾參の翠巒は指顧の裡に在つて風景の勝海浴の便罕に見る所である、楯干の漁遊に至りては此の地の一名物にして他鄕には多く見ざる所毎年五、六月の候を以て好期とし、漁遊中の最も快なるものである、初春晩秋亦漁遊の娯がある、若夫れ盛夏の候に至り

ては、海水浴客常に群を爲し、觀海流の潤水教場も亦此に設けられ、遠く尾參、近畿京阪地方より浴客と學生の來るもの毎年數萬を下らず、浦頭砂清き所にある記念碑は明治四十五年五月　大正天皇の猶東宮に在せし頃、縣地行啓本市御駐泊の際藤堂伯の請を允され、畏くも此海岸に成らせられ、楯干の漁遊臺覽の榮を賜ひたる所で有志相謀りて之を不朽に傳へんとしたものである。

阿漕浦へは津停車場より俥行凡三十二丁、阿漕停車場よりは僅かに十七丁にして達す。

阿漕塚は阿漕浦の西數町田畝の間阿漕の森の中にある古塚で、碑面に阿漕塚の三字を刻す、此碑は天明二年市内綿内町の人吉郎兵衛等の建し所、其傍に句碑がある、俳聖芭蕉翁の「**月の夜の何を阿古木に啼千鳥**」の俳句を刻してある、碑面は東都の俳人雪中庵完來（津藩士にして姓は富增、雪中庵蓼太の高足にして後、庵號を紹きたる人）之を書し、碑は文化十三年仲春市内京口町阿漕庵雁路（村田長兵衛氏の俳號）の建立せる所である。

阿漕の故事に關しては、其出典の據るべきもの未だ確かならず、俚俗の傳る所によれば蜑人阿漕平治なる者海魚「**やがら**」を得て母の疾を醫せんと欲し、夜陰潛に網を禁魚の阿漕ケ浦に投じたことが露見して捕へられ生ながら簀卷となして海中沈められたりといふ、此事院本謠曲に粉飾舖張して之を傳へ來たのである、毎年七月十六日法會を營み、其靈を弔ふを例として居る、此夜市中近郷より來り賽するもの絡繹堵を爲し雜閙を極む。

【贄崎海濱】　岩田川の海に朝する所に一區あり贄崎と稱す、是より北、瀕海一帶の淸渚を稱して贄崎浦と呼んで居る、白砂青松遠淺にして最も海水浴に適し、夏季は遠近來り浴する者常に群を爲し海濱一帶三々伍々人を以て埋まるの盛況を呈す、此地は舊は遊廓の在りし所で其當時は紅樓甍を聯ね市端繁華の別天地であつたが、明治三十九年遊廓撤廢以來全く舊時の觀なきに至つた。

【安濃浦】　塔世川口より南、白砂青松の連る一帶は古歌に名高き安濃の松原と稱せし地（往古の松原道は明應の震災にて陷沒したりと傳ふ）で、此瀕海一帶を稱して安濃浦と云ふ。渚淸く遠淺にして海水浴に適し又楯干の漁遊を爲す者少くない、此邊一帶も亦煙波穩にして風光の明媚なること阿漕浦と伯仲の間である。

【御殿場】　市の南端伊勢電鐵米津浦停留場より徒歩約五分結城神社の東南に在り此の地白砂青松遠淺にして楯干網漁遊の好適地、貸間、貸別莊、浴場、ベビーゴルフ場等の設備あり春夏季は遠近より來遊する者群をなす。

【反古塚】　市の西部大字刑部谷川神社境内、木立茂る處に谷川士淸翁の反古塚がある、翁が國學界の偉人たることは今更言ふ迄もない、翁は著作物の原稿の若干部分を玆に埋めて碑を建てたのである、近く碑を中心に小公園とすべく計畫されて居る。

津商工人名録

津商工人名錄目次

（本名簿中「た」ノ部ニ入ルヘキ「竹細工」ヲ誤ツテ「と」ノ部ニ挿入シタリ）

い …… 一
印刷
醫療器
飲食物
石屋
印判
石灰
糸類

は …… 四
履物
花

に …… 五
肉類

ほ …… 六

へ …… 六
喇筒
法衣
保險

ぺ
ペンキ

ど …… 七
度量衡器計量器
陶磁器
時計
竹細工
細工
塗料
銅器

ち …… 九
蓄音器

り …… 一〇
茶・茶器
家具・指物
菓子
樂器
皮

を …… 一三
紙函
活字
硝子
果物

わ …… 一三
桶
瓦斯
看板

か …… 一四
綿
藁類
傘
玩具
株式・有價證券
紙
金物
海産物
蒲鉾

よ …… 一三
洋服
洋品・雜貨
揚子

た ……三三
足袋・メリヤス類
タオル
畳・畳表
竹材
煙草
樽
タイル
種物

れ ……二六
煉瓦
煉炭

そ ……二七
倉庫業
染物
造花

ら ……二八

む ……二八
ラヂオ機械
麥粉

う ……二八
魚市場
魚類
運輸
請負
團扇
運動用具
植木

の ……三三
農具

く ……三三
靴
靴中敷
屑物

や ……三四
藥品賣藥

ま ……三六
繭市場
繭
燐寸箱生地

け ……三七
鷄卵

ふ ……三七
文房具學校用品
古着
佛檀
船具
古瓶
古道具
鉄力細工
鍬

こ ……三九
米・雜穀
呉服・太物
小間物・化粧品
ゴム製品
骨董
糀味噌
氷
小鳥

て ……四五
電燈・電機
鐵工
手袋

あ ……四六
餡
青物市場
青物・乾物

荒物・雜貨
綿
油・石油

さ ……五四
酒類
砂糖
材木
裁縫器具・手藝材料
鬘具

ま ……五四
銀行
金錢貸付
貴金屬
機械類
生糸
木箱

め ……五七

綿糸・綿布
眼鏡

み ……五八

水引

し ……五八
醬油・味噌
質屋
漆器
書籍
薪炭
塵
食料品
自動車
自轉車
寫眞・寫眞機
紹介業

ひ ……六三
肥料

表具師

せ ……六三
精米
石炭
洗濯業
染料

す ……六五
酢

附錄
法人……六六
工場……六七
商業組合……七三
工業組合……七三
同業組合及組合聯合會……七三
商工業組合及團体……七三
官公衙……七四
學校……七八
鐵道……七九
新聞社・通信部……七九
興信所……八〇
津商工會議所……八〇
議員及役員……八〇
市會議員……八四
縣會議員……八五
貴族院議員……八六
衆議院議員……八六
所得稅調査委員……八六
商事調停委員……八七
金錢債務臨時調停委員……八七
劇場其他……八八

ハノ部

印刷

營業別	營業收益稅額符號	營業所	商號	電話番號	氏名	名稱
印刷（活版）	ア	下部田町	新精社	九一八	青山ヤエ	
〃	ア	榮町	小寺活版所	六八	小寺庄三郎	
〃	ウ	萬町	共昌社	三六〇	大山義資	
〃	エ	釜屋町	山村活版所	五一二	山村淺次郎	
〃	ウ	東町	吉住印刷所	五九〇	吉住滿	
〃（石版）	イ	新東町	求榮堂	一三一九	竹田吉太郎	
〃	ア	地頭領町	野呂印刷所	七五二	安達秀次郎	
〃（活版）		丸之内本町		四二五	弘陽印刷株式會社	
〃	ア	〃	高畑印刷所	四七一	高畑司	
〃（石版）	ウ	古河	津石版印刷社	一二七〇	堀辰三郎	

醫療器

醫療器（藥品、賣藥、計量器、度量衡）

	オ	分部町	高木屋	五六	分部寅吉	

〃（藥品、賣藥）エ分部町藤村屋五二六藤村吉太郎
〃イ丸之内本町伊藤藥店一二三伊藤德之亟
〃ア八町一七九田端正巳
〃四六六合會社神田藥局

（藥品、賣藥、計量器、度量衡）

飲食物

飲食物
〃ア上濱町八百善三〇三中里庄之助
〃ア下部田安利屋五七七松谷源之助
（煙草）
〃ウ榮屋七一二青山得雄
〃ア常磐町荒木屋七九一葛山友次郎
〃ウ大門町大森屋一〇〇八田中庄三郎
〃イ八百音三九〇伊藤音吉
〃イ宿屋町更科七三一大谷地健治
〃イ南之瀬古町ぜが音三九五岡常藏
〃ア魚町四七八林みよ
〃ア堀川町一三七五川北友次郎
〃イ乙部飯田國松

〃イ丸之内本町東屋一〇〇六笠井彌三吉
〃ア〃一二二四山本音吉
〃ア丸之内蔦町つたや一一三八森竹一
〃イ丸之内鰯堀加壽美一〇七五大木松次郎
〃ア伊豫町尾張屋一〇六一玉井實藏
飲食物（酒販賣）
〃ア阿漕町酒善一四二小柴善三
〃ア出口鈴木喜藏

石屋

石材（加工）
〃ウ上濱町石吉一二六四秋田吉藏
〃イ〃石吉本店六九六秋田吉次郎
〃ア極樂町池宮倉吉
〃ウ〃一〇二五池宮佐太郎
〃イ〃一六三六土保平太郎

印判

印判
〃イ大門町一一七一米村二郎

石灰

石灰（陶磁器）	ウ	上濱町	かめ新
〃（陶磁器、壇、セメント、煉瓦）	ウ	分部町	角與
〃（陶磁器、壇）	エ	〃	片岡屋
〃（金物、建築材料）	カ	乙部	
〃（建築材料）	〃		

糸類

糸類（毛糸）		伊豫町	

はノ部

履物

履物	ウ	餘慶町	伊藤商店
〃	イ	下部田	
〃	イ	萬神町	神戸屋
〃	ア	京口町	萬佐
〃	イ	大門町	種屋

七一八	加藤新五郎	四七二	伊藤彌三郎
四一五	清水與左衛門	一一三三	伊藤源三郎
九五八	藤田八百助	一三二九	平松專太郎
一四九	倉田清七	一三一二	長崎佐吉
三一六	國分共同合資會社	四二二	加藤爲吉
九五九	合名會社大和屋商店		

〃	エ	〃	
〃	ア	千歳町	
〃	イ	分部町	丁字屋
〃	イ	〃	辻屋
〃	ア	岩田町	

花

造花（裝飾及葬儀請負）	イ	京口町	花清
生花	ウ	山之瀬古町	花六
造花（裝飾及葬儀請負）	ア	丸之内本町	花よし
〃	ア	丸之内泉町	花敏

一二六七	北村泰次郎	七四二	鈴木實
八二〇	分部勘右衛門	八五一	奥田六右衛門
一二一五	辻八太郎	四二	石嶋太郎
	伊藤一夫	四九六	山田敏男

にノ部

肉類

獸肉	ウ	愛宕町	鳥金
〃	イ	丸之内本町	
〃	ア	〃	

六三一	鳥尾力男		
六二五	山岡倉藏		
七五一	竹中幸太郎		

ほノ部

喞筒

喞筒　ウ　新立町　岡善　四五九　鈴木松次郎

法衣

法衣（表裝布）　ア　地頭領町　九六二　松島善太郎

保險

保險　常磐町　一〇八〇　三井生命保險株式會社津出張所

保險代理　ウ　萬町　長二九　株式會社三重縣農工銀行内森中秀松

〃　寶祿町　日本簡易火災保險株式會社津支部

保險　イ　堀川町　一〇六五　小津寅吉

〃（金錢貸付）　丸之内鰯堀　五九六　相互商事株式會社

〃　伊豫町　一四三二　住友生命保險株式會社津出張所

〃　イ　岩田町　七二九　樋口久平

へノ部

ペンキ

ペンキ塗請負（塗料）　イ　新立町　一三六七　松村嘉十郎

とノ部

度量衡器計量器

度量衡器（漆器、家具類）　オ　萬町　三一九　加藤恒太郎

計量器（農具、蹩具）　ウ　常磐町　九二五　紀平基義

〃（時計、眼鏡、貴金屬）　エ　京口町　七二五　村山佐助

〃（藥品、賣藥）　イ　北町　一五二一　橋本小兵衛

度量衡器（計量器、藥品、賣藥、染料、醫療機）　オ　分部町　五六　分部寅吉

陶磁器

陶磁器（煉瓦、石灰、セメント、土管）　ウ　上濱町　七一八　加藤新五郎

〃　ア　東町　五〇八　川口文右衛門

〃　ウ　大門町　一五〇六　下岡新次郎

〃　ア　中之番町　四二一　藤田八百吉

〃　　ア　藏　町　　酒井ゆみ
〃（石灰、塗、煉瓦）　エ　分部町　片岡屋本店　九五八　藤田八百助
〃（煉瓦、石灰、塗、セメント、土管）　ウ　分部町　角與　四一五　清水與左衛門

時計

時計（貴金屬、眼鏡、計量器）　エ　京口町　七二五　村山佐助
〃　　ア　〃　九六　前田清
〃　　ウ　大門町　九一　淺生かん
〃　　ウ　〃　甲子堂　一三八九　渡邊佐太郎
〃　　イ　分部町　八〇九　林量藏
〃　　ア　〃　八四五　宮崎信彌
〃　　ア　丸之内本町　一六五八　庄村タカ
〃（眼鏡、貴金屬、蓄音器）　ウ　伊豫町　四九一　別所政男
〃　　ア　〃　西川春藏
〃　　ウ　八　町　新屋　一五一五　堀傳之進

竹細工

竹製品　イ　乙部　中森伊郎
〃　　エ　丸之内鯔堀　森田庄藏

塗料

塗料（ペンキ）　イ　新立町　一三六七　松村嘉十郎

銅器

銅器　ア　八幡町　棚村房吉

ちノ部

蓄音機

蓄音機　イ　京口町　七二五　村山力之助
〃（貴金屬、時計、眼鏡）　ウ　伊豫町　四九一　別所政男
〃　　ウ　大門町　甲子堂　一三八九　渡邊佐太郎
〃　　ア　〃　一〇九二　谷ます

茶、茶器

茶（茶器）　イ　京口町　豊新堂　七八　前田忠治

〃　イ　丸之内櫻町　松竹園　一五二　山本兵之助
〃　〃　丸之内本町　一茶園　一二四九　西村朋一
〃　〃　伊豫町　まみや　八四三　亀井利兵衛
〃　ア　〃　ヒシリ　三二二　矢原義三郎
〃（蒟蒻芋）ウ　八町

ゐノ部

旅館、料理

旅館（料理）エ　下部田　松坂屋　一八　後藤市兵衛
〃　ウ　〃　榮屋　七一二　青山得雄
〃　イ　榮町　長一七五　坂井安次郎
〃　ウ　〃　橋亀　佐藤みつ
料理　イ　大門町　富士　一五八〇　岡本新太郎
旅館（料理）エ　萬櫻水樓　長一三三　岡俊次
〃　ウ　西老松　一三六九　岡村玄也
〃　エ　西古梅軒　長一二一　加藤源助
料理　〃　内喜亭　一二三二　合會社名　内喜亭

旅館　ウ　西來寺町　田名瀬　八二一　田名瀬住藏
〃（料理）エ　京口町　加喜伊　五一二〇　齋藤伊藏
料理　ア　北町　八二〇　立岡のぶ
旅館　ア　中之番町　林家　二八　林新藏
料理　イ　新東町　待月　六八一　小宮六兵衛
〃　ア　〃　チョーケー　加藤長繼
〃　オ　宿屋町　敷島　七一五　森川兵藏
〃　ア　大瀨古町　三升　八一四　竹田榮太郎
〃　ア　魚庄　七八六　白井節三
旅館　ア　藏岡宗　三七　岡宗太夫
料理　オ　入江町　生月　一一〇六二　竹中清太郎
〃　〃　大觀亭　五六六　五七六　合會社名　大觀亭
〃　イ　入江軒　一二九二　村林榮藏
〃　ア　清遊軒　九三五　坂文五郎
〃　イ　津會館　芝原おとゑ
〃　ア　〃　六八二　山原たつの
〃　ア　寺町　竹川　一三五五　長谷川りつ

料理　ウ　乙部　水月　二四二　水沼久男
〃　イ　双葉　一〇九三　平田いと
〃　エ　ぽたん　九九七　澤口ゑゆう
〃　イ　四二六　伊藤俊藏
〃　ア　つるや　五二七　小倉とる
〃　ア　一三六一　辻ちやう
〃　イ　ひさご　一一八七　竹村光次郎
〃　イ　亀家　一二一四　伊藤そみ
〃　ア　得月　三九七　岩崎暉子
〃　イ　鳥清　一一七三　堀口かね
〃　ア　ちと勢　三六四　古田はる
旅館（料理）　カ　聽潮館　九一〇六九二　後藤喜逸
〃　ア　海松亭　六一五　今高ゆう
〃　イ　丸之内本町　川宗旅館　七四九　川北ぬい
〃　ア　松金　四〇九　松島すゑの
（運輸）　ア　六〇二　眞弓清吉
〃　ア　岩田館　二三六　山内よね

旅館（料理）　エ　丸之内本町　中津軒　三四二　中田豊麿
料理　イ　〃　笠井しづ
旅館　ウ　伊豫町　角喜　七三六　高山銀之助
料理　ア　岩田町　藤屋　九七七　田邊一雄
〃　イ　出口　加藤いま
旅館　ア　阪下屋　四八九　阪下小ん
料理　ウ　古河　安濃館　六五七　三田玉登
〃　ア　すし三　一二九〇　野口保一
〃　ア　八二七　西口忠三郎

を　ノ　桶　部

桶　ア　常磐町　一四三六　市川梅三郎

わ　ノ　綿　部

綿

ア	大瀬古町	樋口徳三郎	六四四	
〃	丸之内櫻町	加藤與助	悦	
イ	〃	小野萬次郎	三四九	
エ	西新町	岸野照雄	萬	
ア	上辨財町	加藤徳藏	一二七一	
〃	八町	白塚屋		

藁類

藁（苞）	ア	丸之内鯔堀	丸二	一二二〇
				徳田貫一

か ノ部

株式、有價證券

現物賣買（株式有價證券）

〃	京口町	株式會社	岡三商店	昌 八五〇〇四
〃	東町		奥田證券合名會社	七〇一
〃	中之番町	株式會社	岡村商店	昌 二七二一三
〃	分部町		柴田定次郎	昌 五二〇五九
〃	丸之内本町		三重商事株式會社	昌 六五二五八一
〃	〃		西川政之助	四一三〇一七

現物賣買（株式有價證券）

イ	丸之内本町		西口賢治郎	三七五二八三

紙

紙（砂糖）	エ	餘慶町	海老屋	五七六
〃（砂糖、疊表）	エ	中茶屋町	富田屋	五八
〃（砂糖、煙草）	ウ	西町	萬幸	四三六
〃（文房具）	カ	京口町	村田紙店	昌 二五
〃（〃）	オ	分部町	村田眞一	一六九
〃（〃）	エ	伊豫町	三藤重男	七〇七
〃（砂糖）	ウ	岩田町	後藤吉兵衛	六二四
〃（〃）	ア	〃	小野甚三郎	
			佐野ちよ	

金物

金物（佛具）	イ	餘慶町	熊傳	三五〇
〃	イ	〃	千種丈右衛門	四七九
〃	ア	〃	西出菊次	一〇八三
〃	エ	榮町	宮田賢次	二四六

金物

ウ	東町	鐵屋	五四
オ	大門町	鋼屋	三〇〇
カ	乙部		一四九
ア	分部町		
イ	伊豫町		
エ	岩田町	久居屋	二六三三
イ	〃		一三一
イ	八町		五七一

（土管、煉瓦、建築材料）

海産物

海産物（鮮魚）

イ	榮町	魚半	一四九五
カ	魚八町	野島光太郎	二二八
カ	〃	羽田貞吉	二二三
カ	〃	倉田與三兵衛	二二三
オ	〃	中島茂三郎	二五三
	〃 長	七	八一〇
	〃	會名社 川村伊助商店	九三
イ	南濱町	三松友吉	七六六
ウ	片濱町	鐵屋 川井文五郎	

海産物（鮮魚）

ア	西堀端	上村石松	
エ	伊豫町	小川仙太郎	四四五
〃		奥田源一	一四九七
ア	萬魚町		

蒲鉾

蒲鉾

イ	魚町	大橋条次郎	七九
イ	北濱町	北出清太郎	九二三
ア	北濱町	今高甚兵衛	一八三
イ	南濱町	中川源藏	九三六
ア	中宗	島岡熊吉	一五六八
エ	〃	東浦幸次郎	九三九
	〃 板幸		

家具指物

家具類

ア	西町	河合幾三郎	一〇一一
ア	東町	樋口喜藏	一一七九
ア	中之番町	橋本萬藏	一六〇八
ア	地頭領町	平田久吉	一四八三
エ	丸之内本町	梅田勇次郎	六三七

家具類　イ　伊豫町　大矢松次郎　一四六九
〃　ア　阿漕町　小野藤市

菓子類

菓子　イ　中茶屋町　川糖屋　八七八　澁谷平五郎
煎餅　ア　下部田　但馬屋　九九八　西村伊之助
〃　ア　榮町　餅光　一一五八　小野光藏
菓子　イ　萬町　橋分堂　一五七七　前川竹松
〃　イ　釜屋町　一二六　中谷義太郎
〃　ウ　常磐町　九華堂　一〇六八　向井一郎
〃　イ　〃　四五三　太田新藏
〃　イ　京口町　松ヶ枝　七六　内藤恒三郎
煎餅　エ　立町　富貴堂　六一四　伊藤銀太郎
菓子　ウ　大門町　三華堂　四五二　阿部眞一
〃　ウ　中之番町　雲出屋　一〇〇四　大西順
〃　ウ　〃　前田屋　八七三　岩脇利吉
〃　エ　（食料品）地頭領町　土屋好三

菓子　ア　藏町　鵜野太造
〃　イ　澤之上町　福壽軒　八七九　倉田俊造
餅　ア　千歳町　玉吉　一二七三　加藤いし
〃　ア　〃　九一三　草深利吉
〃　オ　分部町　清觀堂　一六七　前川一
煎餅　イ　〃　中勢堂　三九三　宮田敷道
菓子　ア　〃　一四二二　野呂仙二郎
〃　ア　丸之内本町　中村屋　六一一　中村勝美
〃　ア　〃　富久屋　一六三五　河戸芳太郎
パン　ア　〃　木村屋　六二二　森きみ子
菓子　ア　伊豫町　一一一九　刀根三之助
〃　ア　伊豫町　五八八　森永製品東海販賣株式會社
〃　ア　出口町　二四五　船木武雄
〃　イ　八幡町　雲出屋　七七三　下津源吉
〃　イ　綿内　一一一二　北川源右門
〃　イ　八町　一三五八　伊藤秀次郎
〃　ア　〃　岡長次郎

樂器

樂器	エ	大門町三味初	五五六
〃	イ	中之番町	五四九
			岩田仁兵衛
			近藤四郎

皮

皮革（靴中敷）	キ	下部田	五一九
〃	エ	相生町	八三四
〃（米穀）	イ	〃	八七
〃（靴中敷）	エ	常磐町	六一三
皮製品	イ	伊豫町馬具屋	九〇七
〃	ウ	岩田町	一六四七
			山本恒一郎
			藤本太吉
			增田勝藏
			河邊房吉
			桑名彌吉
			下津熊次郎

紙函

紙函	ウ	立町	三九八
〃	イ	柳山花月堂	一〇六七
			牧野龍吉
			伊藤駒吉

活字

活字	イ	丸之内櫻町	六四三
			波田友吉

硝子

硝子製品	イ	中茶屋町黑田屋	八八三
			小黑已作

果物

果物	イ	藏町	一三〇二
〃	ウ	元築造	三二三
			河村孝次郎
			杉田保吉

瓦斯

瓦斯供給		枕町	四三七
			合同瓦斯株式會社

看板

看板	ア	北町	
			西出政次郎

傘

傘製造	ア	東町	
			岡村音次郎

玩具

玩具	ア	東町	一五七六
			島地松之助

よノ部

洋服

洋服	ア	中茶屋町	一一六六 中村亀藏
〃	ウ	萬町	一三一七 村上喜代松
〃	イ	常磐町	一四九七 谷口謙吉
〃	ウ	西町	三七七 松川宗太郎
〃	ア	立町	三九八 牧野正美
〃		大門町	六一 株式會社 丁子屋商店
〃			四六 株式會社 松田商店
〃	ア	宿屋町	一六八一 萩原三次郎
〃	ウ	分部町	四一 八田孫次郎
〃	ア	丸之内本町	松村忠藏
〃	ウ	丸之内櫻町	一三〇七 山崎濱藏
〃	イ	伊豫町	一〇三七 松本繁次郎
〃	ア	弓之町	高須米太郎

（洋品雜貨）

（金錢貨付）

洋品雜貨

洋品雜貨	イ	常磐町	一四九七 谷口謙吉
〃		大門町	六六一 合名會社 白銀屋洋物店
〃			六一 株式會社 丁子屋商店
〃	ウ	地頭領町	八一一 田所好造
〃	ア		一六五三 中西國三郎
〃	ウ	分部町	四一 八田孫次郎
〃	ア		八三七 岸江米藏
〃	ウ	八町	

（洋服）

（洋服）

（文房具）

揚子

揚子	ア	下辨財町	五四四 錦盛社 谷本捨松

たノ部

足袋、メリヤス

足袋	ウ	萬町	六三二 旭屋 上島駒之助
〃	ア	宿屋町	一四二五 本堂平吉
〃	イ	伊豫町	二七九 森川正吉

（メリヤス類）

タオル

タオル	下部田	おぽろタオル株式會社	五七七
〃	エ 八幡町	堀田市郎	六七〇
〃	ア 柳山	内山貞藏	一九九

疊、疊表

疊表（紙、砂糖）	エ 中茶屋町	富田屋	五八
〃（砂糖）	ウ 京口所	富島謙三	
疊（製造）	ア 西來寺町	岡田岩太郎	六二一
疊表	イ 伊豫町	光田庄右衛門	
〃（砂糖）	ア 八町	小川屋	八一
		小川伊兵衛	
		井早彦次郎	

竹材

竹材	イ 下部田	倉田德次郎	九六七
竹細工	イ 分部町	阿部久次郎	一四〇四
竹材	ア 北堀端	内山竹次郎	六一〇
〃（竹細工品）	エ 丸之内鰯堀	森田庄藏	六五〇

煙草

煙草（薪炭、雜穀）	ウ 上濱町	綿屋	七二四
〃（青物）	ウ 〃	別府房吉	二九〇
〃（飲食物）	ア 下部田	村田金藏	五七七
〃（荒物雜貨）	カ 榮町	松谷源之助	五三四
〃（紙、砂糖、油類）	ウ 西町	田中三七郎	四三六
〃（薪炭）	イ 北濱町	高倉幸兵衛	六一二
〃（薪炭雜貨）	イ 乙部	村上幸助	六九四
〃（荒物雜貨）	ウ 丸之内綠町	上廣孝三	九二四
〃（鷄卵雜貨）	エ 南堀端	廣兼	四七三
〃（食料品）	ア 伊豫町	田中節次郎	三八七
〃（紙、砂糖）	ア 岩田町	菊山彌三郎	
〃（文房具）	イ 〃	梅本新三郎	
〃（荒物雜貨）	イ 柳山	佐野ちよ	一四一六
		平井嘉吉	九八一
		阿部たみ	

樽

樽（製造）	ウ 下部田	田中かく	一三一五

樽（製造）ア 新東町 一五〇四 伊藤傳吉

タイル

タイルウ 宿屋町 一五六五 稲垣頼三

種物

種物ア 地頭領町 一〇一 青山吉右衛門

れノ部

煉瓦

煉瓦（陶磁器、石灰、セメント）ウ 上濱町 かめ新 七一八 加藤新五郎

〃（金物、土管、建築材料）カ 乙部 一四九 倉田清七

〃（木材、石灰、建築材料）〃 三一六 國分共同合資會社

〃（陶磁器、塩、石灰、セメント）ウ 分部町 角與 四一五 清水與左衛門

〃（〃）エ 〃 片岡屋本店 九五八 藤田八百助

煉炭

煉炭ア 丸之内鰯堀 八一七 岡田みそ

〃 ウ 枕町 一一五四 豊田瀧三郎

〃 イ 綿内町 一一二九 山本實

そノ部

倉庫業

倉庫業（石炭販賣） 船頭町 ㊫ 三〇一一八 津市倉庫株式會社

染物

染物ア 門前町 四五五 奥田儀三郎

〃（上繪師）イ 乙部 一五〇二 渡邊忠七

〃 ア 八町 山田染工場 七二六 山田庄次郎

造花

造花（裝飾及葬儀請負）イ 京口町 花清 七四二 鈴木實

〃（〃）ア 丸之内本町 花よし 四二 石嶋太郎

〃（〃）ア 〃 泉町 花敏 四九六 山田敏男

ら ノ部

ラヂオ機械

ラヂオ機械（寫眞機）	ウ	京口町	九八〇 中尾一郎
〃	イ	新立町	七八八 高田武郎
〃（電氣器具）	ウ	萬町 清友舍	九三七 松岡一

む ノ部

麥粉

麥粉（砂糖、綿糸、石油）	分	部町	隱七三六 七七五 合名會社 太田商店
〃（製造）	カ	西阿漕町	一〇七七 鈴木愛之助

う ノ部

魚市場

魚介類（委託販賣）	魚	町 ▲	四三三 株式會社 津魚市場
〃	イ	南濱町	九一三 三松友吉

魚類

鮮魚	イ	榮町	一四九五 野島光太郎
〃	カ	魚町 今	二二三 倉田與三兵衛
〃	カ	八	二二八 羽田真吉
〃	オ	食	二五三 中島茂三郎
〃	イ	大口屋	七六四 岡清太郎
〃	ア	魚宗	二〇二 佐野岩吉
〃	ア	下	六五九 鈴木一郎
〃	イ		八一〇 合資會社 川村伊助商店
〃	ア		二二八一 三松小兵衛
〃	ア	魚嘉	一一五〇 辻清三郎
〃	ア	北濱町	一二五八 別所庄太郎
〃	ウ	魚留	一九四 稻垣吉太郎
〃	ウ		四四七 岡田留吉
〃	ア		一二五七 岡田庄太郎
			八兵衛

鮮魚	イ	〃	一〇三九	小野萬吉
〃	ウ	〃 白塚屋	九八	小熊嘉久藏
〃	イ	〃	七九五	美濃春吉
〃	ア	〃 アミ八	一五二〇	岡彌三郎
〃	ア	〃		岡音吉
〃	ア	南濱町	一二九五	刀根安藏
〃	ウ	〃	九八五	行方善兵衛
〃	ウ	片濱町 鐵屋	七六六	川井文五郎
〃	ウ	〃	一七一九	川井芳藏
〃	イ	〃	二九二	鈴木長十郎
〃	エ	〃	一〇二一	辻松兵衛
〃	ア	〃	一一二〇	平子源二
〃	イ	〃		吉川勇吉
〃	ア	〃 魚市	二二七	赤塚市松
〃	ア	〃	五八三	楠民子
〃(養魚)		上濱町	九六三	津養魚株式會社

運輸

鐵道貨物		下部田	二二 〇〇五 七六三	津市合同運送株式會社
鐵道貨物	ウ	東町 津運送店	九〇三	秋山友太郎
運輸		新東町	七八七	伊勢電氣鐵道株式會社
自動車	ア	山之瀨古町	一一五二	江藤元吉
〃	ウ	千歳町	四九八	小野林之助
〃	ア	丸ノ内本町	一〇三六	大森茂
自動車(貨物及旅客)		〃	三九四	津自動車株式會社
自動車運輸		鰡堀	一四八二	巴自動車合資會社
自動車	ア	伊豫町 津タクシー	九七	長田慶助
〃	ア	岩田町	八五四	須川辰次郎
鐵道(運輸)		船頭町	二七二	中勢鐵道株式會社
〃		八町	一〇七九	參宮急行電鐵株式會社
自動車	ア	〃	七九八	樋口賢一
鐵道(運輸)		刑部	六六二	安濃鐵道株式會社

請負

土木	エ	上濱町	九九九
建築	イ	〃	田伏三平
土木（建築）	ア	榮町	村山末吉
建築	ア	寶祿町	一三二八
〃	ア	新東町	清水宇太郎
土木（建築）	カ	山之瀬古町	八八七
建築		乙部	丸山嘉藏
〃	ウ	〃	岡重次郎
〃	ウ	極樂町	野呂廣吉
土木（建築）	ア	乙部	國分共同合資會社
〃	エ	丸之内泉町	三一六
〃	ア	丸之内南町	一四八九
〃	エ	〃	西村又吉
〃	エ	丸之内鯉堀	森庄七
〃	エ	〃	一六五六
〃	ア	弓之町	平井平四郎
〃	ウ	〃	一〇六〇
土木	ウ	柳山	山口利右衛門
			一一四六
			岩田一雄
			一六三七
			柘植清五郎
			二八八
			佐藤藤左衛門
			九二六
			平田安次郎
			一三五二
			波多野喜代太郎
			伊藤清左衛門

建築	エ	船頭町	四三一
〃	エ	神納谷半	九一二
			國分市太郎
			谷口榮藏
團扇	ア	分部町大竹堂	五六〇
			近澤眞一
運動用具（文房具）	イ	分部町	六八三
			吉田喜三藏
植木	イ	下部田	
			船橋竹松
農具（蠶具）	ウ	常磐町	九二五
			紀平基義

靴中敷

靴　ア　中茶屋町　一〇八一　兵野常男
〃　ウ　丸之内本町　五一八　上村和吉
〃　ウ　〃　五九　岡部源七

靴中敷（皮革）　キ　下部田　五一九　山本恒一郎
〃　イ　塔世馬場　九二七　近藤巳之助
〃　エ　常磐町（皮革）　六一三　河邊房吉
〃　ウ　乙部（寺町）盛林號　四〇三　小林豊吉
〃　イ　上辨財町　夏目清衛
〃　イ　下辨財町　宇留田芳太郎

屑物

屑物　ア　丸之内本町　淺田屋　四六九　淺田周平
〃　ア　丸之内泉町　一七三一　野田重五郎
〃　イ　出口（古瓶）　一六一〇　田山嘉太郎

やノ部

藥品賣藥

藥品賣藥　オ　上濱町　七一四　玉置琢雄
〃　イ　下部田　九四二　赤塚一郎
〃　ア　萬町　四九三　前田重一
〃　イ　西町　九九一　水谷寅吉
〃　イ　立町　一四三〇　長島豊一
〃　イ　北町　一五二一　橋本小兵衛
〃　地頭領町　二一九　合資會社長谷部藥局
〃　イ　大門町　一一〇　立川源一
〃　ア　千歳町　　岡準一郎
〃　オ　分部町　五六　分部寅吉
〃　エ　〃　五二六　藤村吉太郎
〃　ウ　〃　一二一九　田中佐藏
〃　ウ　〃　九二　川村千太郎
〃　イ　丸之内本町　一二三　伊藤德之亟
〃　イ　〃　一二一六　安田有

藥品賣藥	ウ	岩田町	八五二 山脇喜藏
〃	エ	〃	一四八八 川北榮一
〃	ア	上辨財町	安濃田勘之亟
〃	〃	八町	四六六 合名會社神田藥局
〃	イ	〃	一三八六 荒木俊雄

ま ノ部

繭市場

繭（生糸）	イ	丸之内本町㊇	三〇八 服部文六

繭

繭	ア	丸之内本町㊇	四六五 鈴木德三郎
〃	イ	〃	一四四 後藤市太郎

燐寸箱生地

燐寸用箱生地製造	ア	佐伯町	八四〇 賀來信太郎
〃	イ	船頭町	四四四 市川庄平
〃（タオル）	ア	柳山	二九七 內山貞藏

け ノ部

鷄卵

鷄卵（煙草、雜貨）	エ	南堀端	四七三 菊山彌三郎
〃（飼料）	エ	古河	七一九 土村德兵衛

ふ ノ部

文房具學校用品

文房具（和洋紙）	カ	京口町	二五 村田眞一
〃	ア	〃	七四六 平松三郎
〃（〃）	オ	分部町	一六九 三藤重男
〃（運動具）	イ	〃	六八三 吉田喜三藏
〃	ア	丸之内本町	一〇六六 淺井源之助
〃	エ	伊豫町	七〇七 後藤吉兵衛
〃	ア	丸之内本町	一〇四九 西村常遣
〃（煙草）	イ	岩田町	一四一六 平井嘉吉
〃（洋物）	ウ	八町	八三七 畠江米藏

古着

古着　ア　新立町　加藤新七

佛檀

佛檀　エ　宿屋町　一二二五　岡林常吉

船具

船具　エ　築地町　塩元　四四六　鹽田元吉

古瓶

古瓶　イ　丸之内蔦町　一一三二　稲垣房次郎

〃（屑物）　イ　出口　一六一〇　田山嘉太郎

古道具

古道具　エ　新東町　㊞　二一七　西惣次郎

鉄力細工

鉄力細工　イ　地頭領町　一〇三〇　堀江貞

〃　イ　丸之内本町　一七三九　服部義太郎

〃　イ　宿屋町　古川榮助

麩

麩（製造）　ウ　立合町　一二五〇　瀧野卓藏

ヒノ部

米、雑穀

米穀　イ　上濱町　一五七一　岸田米吉

雑穀（煙草、石油、荒物）　ウ　〃　綿屋　七二四　別府房吉

米穀　イ　〃　四二〇　村田光次郎

〃　ア　〃　山田由太郎

〃　エ　〃　四五〇　岡芳三郎

〃　ア　下部田　笠間又次郎

〃　ア　中茶屋町　野田正吉

〃　イ　〃　一七一七　平田惣七

〃　ア　榮町　一三四〇　大川芳太郎

〃　ウ　萬町　一一五九　後藤巳之助

米穀

イ	相生町	八七	増田勝藏
イ	塔世西裏柿屋	一三三九	服部久次郎
イ	西來寺町	四六六	金子米吉
ア	北町關屋	一六〇六	森川房吉
ウ	〃		平岡定吉
ア	新東町		松岡梅助
ア	片濱町		鈴木與吉
エ	新中町上野屋	八六八	福森金平
イ	極樂町		小野和一
イ	〃	三四四	小野庄兵衛
〃	〃	一二五四	株式會社築地川喜田商店
〃	〃	六三〇	長谷川兼助
〃	〃	一一七〇	長谷川宗吉
〃	〃		杉田新兵衛
〃	〃	二八四	水谷梅吉
〃	〃		松岡嘉一
〃	〃	一二七六	服部勘太郎

（肥料）

〃	築地町		

雜穀

エ	〃		
イ	山之瀬古町		
ア	千歳町		

米穀

ア	丸之内本町		
ア	乙部		
イ	丸之内南町		

ア	丸之内泉町		
〃	〃		
〃	〃	六七五	佐藤幸太郎
〃	〃		勝田六三郎
ア	丸之内櫻町	一六四九	川合盛一郎
エ	玉置町	六六〇	岡本碩雄
エ	新道米藤	五三八	寺島藤左衛門
ア	釜屋町		田中喜三郎
〃	〃		
〃	〃		
〃	〃		
〃	〃		
〃	〃		

（肥料）

カ	西之口出屋敷關林	六一七九 六六	田中林助
ウ	西新町波瀬屋	一三四四	田中喜藏
ア	〃		古谷留吉
イ	西堀端	一五二二	川本はを
	南堀端	三四〇 一〇八八	合名會社三宅商店
ウ	伊豫町野田六	六一九	伊東六左衛門
イ	出口	一二一二	田中土内
ア	〃		羽田義生
ア	〃		前田卯兵衛
ウ	綿内町		志田喜藏
イ	宮之前		飯田義夫

米穀

ウ 弓屋敷 神戸屋 一〇二七 深尾恒次郎
ア 立合町 〃 川島彌吉
イ 八幡町 三河助 一二一七 石川覺造
ウ 〃 〃 八六五 松永秀吉
イ 〃 米安 八六〇 松永安次郎
エ 藤枝町 神戸屋 六一六 深尾龜三郎
ア 八町 〃 一〇〇五 若林源次郎
ア 〃 〃 二一六 草川太刀三
イ 〃 米竹 一五二六 山田竹郎
イ 〃 〃 一四〇五 若茶爲之助
エ 〃 荒竹 一三九五 荒木喜藏
イ 古河 〃 七三八 大杉勝太郎
ア 〃 〃 一一九二 古谷卯之助

呉服、太物

呉服、太物

イ 榮町 中井一夫

ケ 大門町 白銀屋 長四九三 鈴木庄次郎
イ 中之番町 伊澤友 一一〇〇四 笠井友三郎
イ 〃 兵丹屋 二六七 川北甚之助
オ 宿屋町 中川屋本店 七三 中川藤右衛門
オ 〃 岡田屋 三五七 金子安雄
〃 〃 紙平 一六六 合名會社紙平呉服店
ア 地頭領町 二六〇 黒川順平
ア 山之瀬古町 桂忠藏
イ 藏町 一〇五六 中川佐藏
キ 分部町 すがたや 四二八 小菅利三郎
イ 丸之内本町 六四九 辻井勇
イ 南堀端 松谷屋 一三三七 松谷泰次郎
ア 岩田町 一一三七 砂原正造
ア 出口 一三五七 牧野庄三郎
ア 八町 えちごや 一三〇四 松田喜助
ア 〃 田中屋 一三八八 田中芳之助

小間物、化粧品

小間物（化粧品）	ウ	大門町	白銀屋	一七二	松岡謙造
〃	ア	〃	龜丈	九四三	小澤愛之助
化粧品	ウ	〃	鍵屋	二七八	倉田喜美子
小間物（化粧品）	イ	中之番町	富桝屋	九七一	增富嘉兵衛
〃	ア	〃	フタバヤ	一四〇三	松葉麻吉
化粧品	ウ	地頭領町		九七〇	青木榮二
小間物（貴金屬）	エ	〃		五五九 六七九 六〇三	伊藤鍵次郎
〃	ウ	伊豫町		一四一九	西井政三
化粧品		寶祿町		八三二	資生堂三重販賣株式會社

ゴム製品

ゴム製品	イ	分部町	一三二二	水谷德次郎

骨董

骨董（書畫）	ア	常磐町	一七二三	長合理吉
〃	ア	西町		久住定藏

〃	ア	東町		久世定郎
〃（書畫）	ア	中之番町	一一三九	伊藤貞一

糀味噌

糀味噌（製造）	エ	藏町	一四七五	中村與次右衛門

氷

氷（製造）		乙部	七六〇	津冷藏製氷株式會社

小鳥

小鳥	ア	丸之內本町中辰	九三二	草川源藏

【ノ】部

電燈、電機

電氣器具	ウ	萬町清友舍	九三七	松岡一
〃	ウ	丸之內本町	一一一〇	中島儀一郎
電燈、電力、電氣器具		南堀端	九四七 一七四 二五二	合同電氣株式會社津支社
電燈器具	イ	伊豫町	二七	森田信造

鐵工

鐵工　ウ　上濱町　八二六　青山松次郎
〃（鑄造）イ　下部田　一三六二　坂本靜
〃　ア　乙部　一一一一　鳥羽幸吉
〃　ア　丸之内鰯堀　一二一三　村木新十郎
〃　イ　丸之内蔦町　二九六　石川龜吉
〃（鑄造）ア　柳山　八九三　水谷清一
〃　イ　古河　乾鐵工所　乾半兵衛

手袋

手袋　ア　古河　一三三二　長良直吉

あノ部

餡

餡（製造）イ　北町　八六九　伊藤睦之助

青物市場

青物、乾物

青果類　エ　片濱町　㊦　五〇二　天春源太郎
青物乾物類　入江町　五一七　株式會社　津青物商會

青物乾物　ウ　上濱町　二九〇　村田金藏
〃　ア　〃　柳川しゃう
〃　ウ　下部田　一二八七　高橋榮三郎
〃　イ　榮町　一二九八　中井仁三郎
〃　ア　賓祿町　五三五　水谷常太郎
〃　イ　釜屋町　三九二　伊藤竹二郎
乾物（食料品）イ　立町　淺生確造
〃　エ　大門町　永居屋　五三一　永原榮吉
〃　イ　藏町　一三〇二　河村孝次郎
〃　ウ　千歳町　三三九　小塚政吉
乾物（食料品）ウ　〃　八九七　小塚壽美
青物、乾物　ウ　〃　三七六　瀨古尊勝
〃　ア　贄崎町　內田新次郎

青物、乾物	イ	丸之内鯉堀		一一九一	青山松之助
〃	ア	丸之内櫻町		一一八四	村西辰次郎
〃	ウ	〃		八三〇	佐脇佐藏
〃	ア	〃		五四三	池田甚九郎
〃	ア	丸之内本町		一二〇一	縄手信一
〃	ア	西堀端			村田彦三郎
〃	ア	伊豫町		一一四五	野田實
〃	ウ	元築造		三二三	杉田保吉
〃	エ	西阿漕町		六七七	眞見恒吉
〃	イ	綿内町		一六四三	森本好信
〃	ウ	立合町		九六六	阪下定吉
〃	イ	上辨財町		一三九九	山川藤吉
〃	ア	八幡町		一二〇五	上島信吉
〃（茶、蒟蒻芋）	ウ	八町	ヒシリ	三一二	矢原義三郎

荒物、雜貨

荒物雜貨（金錢貸付）	カ	榮町	五三四	田中三七郎

〃（家具、漆器）	オ	萬町	桝五本店	三一九	加藤恒太郎
〃	ア	京口町	中屋	一五四七	中島武雄
〃（煙草）	イ	乙部町	廣粂	六九四	上廣孝三
〃（漆器、家具）	エ	分部町		四六二	荒木耀赫
〃（煙草）	ウ	丸之内綠町	片田屋	九二四	田中節次郎
〃（鷄卵）	エ	南堀端		四七三	菊山彌三郎
〃	エ	伊豫町		五六八	山川幾太郎
〃	ア	岩田町		五〇五	田中政吉
〃	ウ	〃		一六四七	下津熊次郎
〃	ウ	立合町		七四八	鈴木芳尾
〃	イ	柳山		九八一	阿部たみ
〃	イ	八町	田島屋	九五七	細田正七
〃（砂糖）	ウ	京口町		六二一	光田庄右衛門

網

漁網（製造）	五軒町	七五七	內外製網株式會社

油、石油

油類	ウ	萬町	梅屋	三九九	石丸清次郎

油類

〃	イ	分部町	大野八重	九一九
石油（麥粉、綿糸、砂糖）			合名會社 太田商店	電七三六 七七五
油類	エ	岩田町	川北佐平治	二五五 一五五四
〃	イ	八町	山納多藏	一〇七〇
〃（肥料）	エ	〃	稻垣勘四郎	五六四 一六一六

さ ノ部

酒類

酒（製造）	イ	上濱町	青山久四郎	一四五
酒製造（味噌、溜醬油）	キ	餘慶町十一屋	高井作右衛門	電一一 七二一 〇一七 三一七
酒	イ	榮町	渥見哲三	七二三
〃（醬油）	エ	京口町	水谷伊三郎	五八四
〃		東町紙藤	合名會社 丸山酒店	二二九
〃	イ	宿屋町	橋本金十郎	一二五二
〃（味噌、溜醬油）	カ	南濱町澤屋	藤澤茂右衛門	二四一
〃	ウ	乙部	黑川定吉	四六八
〃	ア	丸之內泉町樋口支店	若林善右衛門	一二四七

〃	ア	丸之內本町	小原富三郎	一三八七
〃	ア	丸之內綠町	栗本忠三郎	四八
〃（味噌、溜、醬油）		伊豫町木屋	合名會社 森本仙右衛門商店	二四〇
〃	エ	〃富士倉屋	岡本千代治	一六八
〃	エ	岩田町角太	山本太兵衛	七三七
〃	イ	〃十一屋	藤崎正司	一一六四
〃	ア	出口	江崎貞一	一二四二
〃	イ	上辨財町	村田德次郎	一五一〇
〃（味噌、醬油）	ア	下辨財町	小野松次郎	一四二
〃（飲食物）	ア	阿漕町酒善	小柴善三	一〇九七
〃	ウ	〃	奥野平	一〇七一
〃	ウ	柳山	內山利雄	二八六
〃	エ	八町	谷口友藏	三六八
〃	ウ	〃	倉田文平	一二九四
〃	ウ	〃	古谷嘉市	

砂糖

砂糖（紙）	エ	餘慶町	海老屋
〃（疊表、紙）	エ	中茶屋町	富田屋
〃（煙草雜品）	ウ	西萬町	幸
〃（荒物雜貨）	ウ	京口町	
〃	ア	地頭領町	
〃（麥粉、綿糸、石油）		分部町	
〃	ア	〃	
〃（紙）	ウ	岩田町	小野長
〃（紙、煙草）	ア	〃	
〃	イ	八町	
〃（疊表）	ア	〃	

材木

材木	ウ	餘慶町	
〃	イ	堀川町	
〃（建築材料）		乙部	
〃	イ	極樂町	

五七六 伊藤安之助
五八 富島謙三
四三六 高倉幸兵衛
六二一 光田庄右衛門
一四二七 辻岡眞六
（電）六七三五 六三六 合名會社 太田商店
七七四 大川金兵衛
六二四 小野甚三郎
佐野ちよ
九三〇 藤田安兵衛
井早彦次郎

三三〇 大森吉兵衛
一四三 藤波清
三一六 國分共同合資會社
一二四〇 野崎定市

〃		常磐町	
〃	ア	丸之内本町	
〃	ウ	丸之内本丸	
〃	イ	丸之内鯉堀	
〃	イ	伊豫町	
〃	ア	〃	
〃	ア	出口	
〃	エ	柳山	
〃	エ	船頭町	
〃（建築請負）	エ	神納谷	半

裁縫器具、手藝材料

手藝材料	イ	立町	
ミシン機械	ア	〃	

蠶具

蠶具（農具、計量器）	ウ	常磐町	

九九六 合資會社 八田材木店
二八四 加藤末吉
一七〇 田中章介
四四〇 谷口半内
一〇一四 岡田治兵衛
九六八 矢野十五郎
六四一三八五 國分靖三
七八一 奥山忠七
四九〇三一 國分市太郎
九二二 谷口榮藏

七七二 西田義一
出口俊道

九二五 紀平基義

き ノ部

銀行

銀行業			支配人住宅	副支配人住宅	
萬町	株式會社	三重縣農工銀行	一五九二		一六五一
〃 丸之内鰻堀	株式會社	百五銀行	五三二	一〇三〇	一七九四
〃 大門町	株式會社	三重共同貯蓄銀行	八五七三		一三五七
〃 京口町	株式會社	日本貯蓄銀行津支店	一一三一		
〃 立町	株式會社	勢南銀行津支店	九三七七		
〃 大門町	株式會社	愛知銀行津支店	一〇九八六二		
〃	株式會社	百五銀行大門町支店	二五九		
〃 中之番町	株式會社	不動貯金銀行津支店	三四一		

金錢貸付

金錢貸付（荒物、雜貨）			
カ 榮町		田中三七郎	五三四
〃 イ 常磐町	（洋服）	谷口謙吉	一四九七
〃 エ 愛宕町		西岡又四郎	
〃 ア 中河原		伊藤五三郎	五八二
〃 イ 中ノ番町		小川兵一郎	
〃 イ 新中町		西村ます	
〃 ア 贄崎町		館虎雄	一〇九〇
〃 エ 丸之内殿町		宮本謙郎	
〃 丸之内鰻堀	（保險代理）	相互商事株式會社	五九六
〃 イ 一番町		森本五稜	
〃 ウ 岩田町	（荒物雜貨）	下津熊次郎	一六四七
〃 イ 阿漕町	（保險代理）	眞野茂郎	一一六一

貴金屬

貴金屬（時計、眼鏡計量器） エ 京口町		村山佐助	七二五
〃 ウ 大門町	（時計、眼鏡）	淺生かん	九一
〃 ウ 〃	（眼鏡、時計、蓄音機）	渡邊佐太郎	一三八九

甲子堂

〃（小間物、化粧品）　エ　地頭領町　伊藤鍵次郎　九五五

〃（眼鏡、時計）　イ　分部町　林量藏　八〇九

〃（細工）　ア　丸之内本町　宮崎脩吾　八四五

〃（眼鏡、蓄音機、時計）　ウ　伊豫町　別所政男　四九一

機械類

機械類　ウ　下部田町　加藤吉兵衛　五二二

〃　エ　常磐町　赤津甚吉　一一九

〃（古銅）　ア　丸之内綠町　鈴木喜七郎　一〇四四

〃（タオル）　イ　八町　森謹三郎　九二八

生糸

生糸　柳山　關西製絲株式會社　四三八二五四

〃　古河　關西國用製絲所　八四四

木箱

木箱　ア　澤之上町　土井庄藏

正

め ノ部

綿糸、綿布

綿糸製造（紡績）　上濱町　岸和田紡績株式會社津工場　三三三

綿布製造　ク　上濱町　富田金七　一三九

〃（毛織物）　餘慶町　大森織物合名會社　三〇五

〃（晒上）　エ　萬町　町谷源藏　九三四

綿布綿糸　榎ノ下　伊勢晒工場　八五〇

綿糸（砂糖、麥粉、石油）　分部町　太田商店　七七三五六

綿布　丸之内鯰堀　川喜田商店　二五六

綿糸綿布製造（紡績）　船頭町　東洋紡績株式會社津工場　七六一五六一九九四

綿布製造　古河　富田商店　二六三

眼鏡

眼鏡（貴金屬、時計、計量器）　エ　京口町　村山佐助　七二五

〃（貴金屬、時計）　ウ　大門町　渡邊佐太郎　一三八九

〃（〃）　イ　分部町　林量藏　八〇九

眼鏡（時計、貴金屬、蓄音器）ウ 伊豫町 四九一 別所政男

み ノ部

水引

水引（製造）ア 常磐町 坂口源兵衛

し ノ部

醤油、味噌

醤油、味噌製造 エ 上濱町 一一三 橋本清助

〃（酒製造）キ 餘慶町十一屋 七二一 高井作右衛門

〃（酒類）エ 京口町 〇一一 五八四 水谷伊三郎

〃 エ 東町紙文 二三一 丸山文一

〃（酒製造）カ 南濱町澤屋 二四一 藤澤茂右衛門

〃 オ 極樂町米仁 一三〇 後藤仁兵衛

〃（酒製造）伊豫町木屋 四八 合名會社 森本仙右衛門商店

〃（酒類）エ 岩田町角太 一六八 山本太兵衛

〃（〃）ア 下辨財町 三一 小野松次郎

〃 ウ 八幡町松金 三二 辻金兵衛

質屋

質屋 イ 新中町 西村ます

〃 ア 新立町 加藤新七

漆器

漆器（家具）オ 萬町 三一九 加藤恒太郎

〃（家具、雜貨）エ 分部町 四六二 荒木耀赫

〃 ア 丸之内本町 新龜治郎

書籍

書籍 餘慶町 一二八四 合資會社 三重縣國定教科書特約販賣所

〃（雜誌）エ 京口町 二三〇 別所信一

〃（〃）立町 五三三 合資會社 太田書店

〃（古本）ア 新立町 平松高太郎

〃（雜誌）エ 伊豫町 一九五 若林寅藏

薪炭

薪炭（雜穀、油類）	ウ	上濱町	七二四 別府房吉
〃	ア	榮町	五九九 林三夫
〃（煙草）	イ	北濱町	六一二 村上幸助
〃（雜貨）	イ	乙部廣兼	六九四 上廣孝三
〃（亞炭）	ア	丸之内鰡堀	一四七〇 出口稔
〃（米穀）	ウ	西新町	一二四四 田中喜藏

鹽

鹽（元賣捌）		乙部	八八五 北勢鹽業合資會社津支店

食料品

食料品	ア	京口町	八一五 松田昂
〃（乾物）	エ	大門町永居屋	五三一 永原榮吉
〃（菓子、罐詰類）	エ	地頭領町	八七三 土屋好三
〃	ア	〃魚久	八六六 加藤清二郎
〃（乾物、罐詰）	ウ	千歲町	八九七 小塚壽美
〃（煙草）	ア	伊豫町	三八七 梅本新三郎

自動車

自動車（部分品）		丸之内本町	一〇三八 三重モータース株式會社
〃（タイヤ修繕）	ウ	伊豫町	一五八五 井上芳郎

自轉車

自轉車	ア	地頭領町	一〇三三 廣瀨兼藏
〃	ア	餘慶町	千種金三郎
〃	ウ	萬町	五〇三 吉田豐男
〃	ア	新立町	八五 金兒退三
〃	イ	丸之内本町	一二八三 内藤實
〃	イ	〃	一二九〇 高橋幸一
〃	ア	〃	峯音吉
〃	イ	〃	九三二 木平博
〃	ア	〃	田端清三郎
〃	ウ	分部町	山中藤吉
〃	ア	綿内	六五五 廣島光次郎

寫眞、寫眞機

寫眞機（ラヂオ機械）　ウ　京口町　中尾一郎　九八〇
寫眞業　ア　宿屋町　上田基　一四〇一
〃　ウ　地頭領町　佐藤壽生　七二〇
〃　ア　丸之内本町　岡井朋藏　一一五一
〃　イ　〃　長谷川喜藏　二〇五
〃　ア　〃　池永定壽　一六三四
〃　ア　伊豫町　田中一美

紹介業

紹介業　ア　出口　山川善右衛門

ひノ部

肥料

肥料　京口町　小島合名會社　四七二〇二
〃（米穀）　カ　西之口出屋敷　關林　田中林助　六六一七九

〃　築地町　洋式會社築地川喜田商店　一五五一二四
〃　ア　〃　久世卯兵衛　三五二
〃　エ　伊豫町　柴田儀三郎　九〇一
〃　カ　八町堀屋　田中清兵衛　七〇六
〃　（石油）　エ　〃　稲垣勘四郎　一五六四一六一六

表具師

表具師　ア　北町　淡月堂　乾義之輔
〃　イ　乙部　疊林堂　安保音七　一〇一二
〃　ア　丸之内本町　耕月堂　長谷川亥之助

せノ部

精米

精米　エ　上濱町　岡芳三郎　四五〇
〃　エ　新道　寺島藤左衛門　五三八
〃　南堀端　三宅商店（合名會社）　三四〇
〃　イ　極樂町　小野庄兵衛　三四四

精米　ア　丸之内本町　二八四　水谷梅吉
〃　イ　八幡町　一二一七　石川覺造
〃　エ　藤枝町　六一六　深尾龜三郎

石炭

石炭（倉庫業）　エ　丸之内鰯堀　一七六　中井庄太郎
〃　船頭町　三一〇一八　津市倉庫株式會社

洗濯業

洗濯業　イ　丸之内櫻町　九六一　沼田清一郎
〃　ウ　綿内　一〇八五　前田進
〃　ア　〃　一二七四　佐藤善次郎

染料

染料（藥品、賣藥、度量衡計量器、醫療器）　オ　分部町　五六　分部寅吉
〃　エ　〃　五二六　藤村吉太郎
〃（〃）　イ　丸之内本町　一二三　伊藤德之亟

染料（賣藥）　分部町　一三八一七二五　合資會社加藤商店

すノ部

酢

酢製造　阿漕町　五〇一　山二造酢株式會社

法人一覽

（有權者ノミ）

銀行

名稱	業種	資本金	拂込資本金	設立年月	所在地	代表者氏名
株式會社百五銀行	銀行業	10,000,000円	八、九六二、五〇〇円	明治十一年十二月	丸之内鰮堀	川喜田久太夫
〃 三重縣農工銀行	〃	10,000,000	九、二五〇、〇〇〇	〃 三十年十二月	萬町	小林嘉平治
〃 三重共同貯蓄銀行	貯蓄銀行業	五〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	大正十年一月	大門町	川喜田久太夫
〃 愛知銀行津支店	銀行業	—	—	明治三十二年九月	〃	伊藤清治
〃 日本貯蓄銀行津支店	貯蓄銀行業	—	—	〃 十一月	京口町	稻葉小太郎
〃 不動貯金銀行津支店	〃	—	—	〃 四十二年二月	中之番町	中山忠一
〃 百五銀行大門町支店	銀行業	—	—	大正十三年四月	大門町	土田爲助
〃 勢南銀行津支店	〃	—	—	昭和三年三月	立町	佐波元三

株式

名稱	業種	資本金	拂込資本金	設立年月	所在地	代表者氏名
關西製絲株式會社	生絲、蠶種	二、〇〇〇、〇〇〇円	一、七二〇、〇〇〇円	明治二十九年十二月	柳山	小島朋男
株式會社津魚市場	魚市場	二五〇、〇〇〇	六二、五〇〇	大正二年一月	魚町	川井文五郎
株式會社津青物商會	青物市場	五〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	〃 四年六月	入江町	福島儀三郎
株式會社富田商店	織物	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	〃 五年二月	古河	富田謹三
津養魚株式會社	魚類養殖	一五〇、〇〇〇	八四、〇〇〇	〃 年十二月	上濱町	鈴木揣郎
內外製網株式會社	漁網	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	〃 六年五月	五軒町	前川幸助
株式會社川喜田商店	綿布	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	〃 年十二月	丸之內鰮堀	川喜田久太夫
おぼろタオル株式會社	タオル	一五〇、〇〇〇	一二三、五〇〇	〃 七年八月	下部田	森田庄三郎
津自動車株式會社	運輸業	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	〃 年十二月	丸之內本町	加藤武員
株式會社岡三商店	有價證券賣買	二〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	〃 八年五月	京口町	加藤清治
合同電氣株式會社	電氣	七二、〇三四、九五〇	六二、二三四、九五〇	〃 十一年五月	南堀端	太田光凞
相互商事株式會社	金錢貸付代理業	五〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	〃	丸之內鰮堀	川喜田四郎兵衛
株式會社松田商店	洋服	一〇〇、〇〇〇	四五、〇〇〇	〃 年十一月	大門町	松田甚十郎
株式會社關西國用製絲所	製絲	二〇〇、〇〇〇	一二五、〇〇〇	大正十一年十月	古河	小島朋男
津冷藏製氷株式會社	製氷	三〇〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	〃 十三年三月	乙部	植山昇五郎
津市倉庫株式會社	倉庫業、石炭販賣	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	〃 年七月	船頭町	田中林助
株式會社築地川喜田商店	肥料	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	〃	築地町	川喜田四郎兵衛
山二造酢株式會社	酢	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	〃 十五年二月	阿漕町	岩橋清次郎
株式會社岡村商店	有價證券賣買	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	昭和元年十二月	中之番町	岡村勘兵衛
安濃鐵道株式會社	運輸	一〇六、〇〇〇	一〇六、〇〇〇	〃	八町	紀平健吾
津市合同運送株式會社	運輸業	一五〇、〇〇〇	一三五、〇〇〇	〃 二年九月	下部田	淺沼長次郎
弘陽印刷株式會社	印刷業	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	〃	丸之內本町	松本宗重
三重モータース株式會社	自動車部分品	一〇〇、〇〇〇	六五、〇〇〇	同 三年十二月	〃	野呂靜
資生堂三重販賣株式會社	化粧品	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇	〃 五年二月	寶祿町	森川正吉

合同瓦斯株式會社	瓦斯	一、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	〃	年八月	西新町 安保庸三
株式會社丸山糸店	糸類	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	〃	十年一月	岩田町 丸山好亮
東洋紡績株式會社津工場	綿布	—	—	昭和	六年三月	船頭町 小林照雄
岸和田紡績株式會社津工場	綿糸	—	—	大正	十五年五月	上濱町 加藤源次郎
中勢鐵道株式會社	運輸	—	—	同	九年二月	船頭町 井口彦四郎
日本簡易火災保險株式會社津支部	保險	—	—	〃	七年五月	寶祿町 西脇桂一
株式會社丁子屋商店	洋服	—	—	昭和	十年五月	大門町 小林源六
森永製品東海販賣株式會社津出張所	菓子	—	—			伊豫町 吉田宗三郎
伊勢電氣鐵道株式會社	運輸	—	—	明治四十四年十一月		新東町 半田貢
三井生命保險株式會社津出張所	保險	—	—			常磐町 水野義九郎
參宮急行電氣鐵道株式會社	運輸	—	—			八町 金森又一郎

合名會社

名稱	業種	出資額	設立年月	所在地	代表者氏名
合名會社太田商店	砂糖、麥粉、石油	一六五、〇〇〇円	大正六年十二月	分部町	太田茂兵衛
奥田證券合名會社	有價證券賣買	五〇、〇〇〇	〃八年十一月	東町	奥田喜一郎
小島合名會社	肥料	一〇〇、〇〇〇	〃十二年五月	船頭町	小島惣右衛門
合名會社大和屋商店	絹綿糸、タオル	三一、〇〇〇	昭和二年三月	伊豫町	中川彌助
合名會社三宅商店	米穀	三五、〇〇〇	〃三年一月	南堀端	三宅勝吉

合名會社紙平吳服店	吳服太物	三〇、〇〇〇	〃	宿屋町	前葉岩吉
合名會社白銀屋洋物店	洋品雜貨	二五、〇〇〇	〃二	大門町	倉田喜太郎
合名會社神田藥局	賣藥	一六、二〇〇	〃	八町	藤枝利助
合名會社大觀亭	旅館料理	二五、〇〇〇	〃五年八月		
合名會社丸山酒店	酒類販賣	三〇、〇〇〇	〃六年一月	入江町	植山昇五郎
合名會社森本仙右衛門商店	清酒醬油	一五〇、〇〇〇	〃年九月	東町	丸山藤七
大森織物合名會社	織物	一〇〇、〇〇〇	〃七年十二月	伊豫町	森本仙右衛門
合名會社內喜亭	和洋料理	二〇、〇〇〇	〃八年一月	餘慶町	大森吉郎
			〃	西町	若林喜兵衛

合資會社

名稱	業種	出資額	設立年月	所在地	代表者氏名
國分共同合資會社	木材、建築材料	三〇、〇〇〇円	大正十一年三月	乙部町	後藤久彌
合資會社伊勢晒工場	綿糸布加工	一四、五〇〇	〃十二年一月	榎之下	中川清錦
北勢搗業合資會社	搗元賣捌	—	〃十四年十二月	乙部	川口喜四郎
合資會社八田材木店	材木	二五、〇〇〇	〃十五年八月	常盤町	八田新五郎
合資會社三重縣國定教科書特約販賣所	教科書	二五、〇〇〇	〃年十二月	餘慶町	加藤五百記
合資會社川村伊助商店	海產物	一〇、〇〇〇	昭和二年四月	魚町	川村伊助
合資會社長谷部藥局	賣藥	一三、〇〇〇	〃四年二月	地頭領町	長谷部鉄太郎
巴自動車合資會社	運輸	八、〇〇〇	〃六年七月	丸之內鰯堀	德田貫一
合資會社太田書店	書籍雜誌	一八、〇〇〇	〃七年十一月	立町	太田新太郎

工場

（十人以上職工ヲ使用スルモノ）
（昭和十一年一月末現在）

工場名	所在地	創業年月	製品種類	職工數
森本醸造工場	伊豫町	文政五年二月	醤油、味噌、生引溜	二七人
高井醸造工場	餘慶町	弘化元年五月	〃	三六
梅田家具製造工場	丸之内本町	明治五年三月	和洋家具	二〇
株式會社伊勢新聞社	〃	十三年一月	新聞	五七
坂口製絲工場	乙部	〃 年九月	製絲	三七
弘陽印刷株式會社工場	丸之内本町	〃 十八年一月	印刷	二五
松田商店裁縫工場	大門町	〃 二十一年五月	洋服裁縫	二五
鈴木株式會社工場	乙部	〃 年十二月	足袋、メリヤス類	一三
市川燐寸生地製造工場	船頭町	〃 二十八年一月	燐寸箱生地	三二
關西製絲株式會社工場	柳山	〃 二十九年二月	生絲、蠶種	四一九
共昌社工場	萬町	〃 三十一年七月	印刷	一一
東洋紡績株式會社津工場	船頭町	〃 三十年二月	綿布、綿糸	一、三七四
賀來工場	佐伯町	〃 三十四年一月	燐寸箱生地	二一
盛林號工場	乙部	〃 三十七年一月	靴中敷	四〇
富田織布工場	上濱町	〃 三十九年七月	綿織物	一一四
國分製材工場	船頭町	〃 四十一年三月	製材	一二

谷本妻揚子工場	下辨財町	〃 八月	妻揚子	一八
山村活版所	釜屋町	〃 四十五年七月	印刷	一八
伊勢晒工場	榎ノ下	大正元年十月	綿布綿糸（晒上）	二六
町谷織布工場	相生町	〃 二年一月	綿布	一五
大森織物合名會社工場	餘慶町	〃 三月	綿布、毛織物	一三六
堀田浴巾工場	八幡町	〃 年十一月	タオル	一七
内外製網株式會社工場	五軒町	〃 六年四月	漁網、編網機	一五〇
森田竹製品工場	丸之内鰡堀	〃 七年二月	竹材、竹製品	六四
おぼろタオル株式會社工場	下部田	〃 八年八月	タオル	一九三
吉脇製絲工場	八幡町	〃 十年一月	製絲	一二
醴丁子屋洋服工場	大門町	〃 年四月	洋服裁縫	七四
山二造酢株式會社工場	阿漕町	〃 年十一月	酢	一二
國分製材工場	出口	〃 年十二月	製材	一三
關西國用製絲所工場	古河	〃 十一年十月	製絲	二〇〇
内山浴巾工場	柳山	〃 十二年八月	タオル	一四
岸和田紡績株式會社津工場	上濱町	〃 十五年四月	綿糸	一、四三一
合資會社八田材木店工場	常磐町	〃 年八月	製材	一〇
宇留田靴中敷工場	下辨財町	昭和元年二月	靴中敷	四〇
鈴木製粉工場	西阿漕町	〃 二年二月	製粉	一四
昭和工場	上辨財町	〃 二年三月	〃	二〇

松島製絲工場	〃	上濱町	〃年八月製絲	一〇
津織物株式會社工場	〃	柳山町	〃九年七月人絹織物	二四
若林人絹織物工場	〃	西阿漕町	〃年八月	二二
阿漕竹箸製造工場	〃	〃	竹箸	一〇

商業組合

組合名稱	事務所位置	組合及團体區域	設立年月
三重縣蓄音器小賣商業組合	津市京口町	三重縣	大正九年十二月
津安濃自轉車小賣商業組合	〃地頭領町	津市、安濃	昭和十年六月
津洋服商業組合	〃大門町	津市	〃
津市肥料卸商業組合	〃船頭町	〃	〃十年七月
津米穀商業組合	〃新東町	〃	〃十一年一月

工業組合

組合名稱	事務所位置	組合及團体區域	設立年月
伊勢輸出タオル工業組合	津市丸之内殿町	津市、安濃、一志、河藝、鈴鹿	昭和六年九月
伊勢織物工業組合	〃乙部	〃	〃
三重縣製氷工業組合	〃	三重縣	〃八年一月

伊勢醬油工業組合	〃佐伯町	津市、一志	〃年十二月	
三重縣瓦工業組合	〃下部田	三重縣	〃年五月	

同業組合及組合聯合會

組合名稱	事務所位置	組合及團体區域	設立年月
三重縣醬油同業組合	津市下部田	三重縣	明治三十二年一月
伊勢織物同業組合	〃丸之内殿町	津市、安濃、河藝、鈴鹿	〃
三重縣製絲同業組合	〃下部田	三重縣	〃
三重縣藥品賣藥同業組合	〃中新町	〃	大正十一年二月
三重縣藥品賣藥同業組合第四部支部	〃大門町	津市、安濃、一志	〃
三重縣茶業組合聯合會	〃下部田	三重縣	〃
三重縣酒造組合聯合會	〃	〃	〃
三重縣米穀商組合聯合會	津商工會議所	〃	昭和十年五月
三重縣土木建築請負業組合聯合會	津市榮町	〃	〃六年十二月
三重縣土木建築請負業組合聯合會第一津支部	〃山之瀬古町	津市	〃

商工業組合及團体

名稱	事務所位置	組合及團体區域	設立年月
三重縣醸造研究所	津市下部田	三重縣	大正八年十月
津安濃煙草小賣人組合	〃 中茶屋町	津市、安濃郡	大正九年三月
南勢肥料商組合	津商工會議所	津市、安濃、一志、飯南、多氣、度會、宇治山田	〃 十四年四月
津市指物業組合	津市丸之内本町	津市	明治四十一年一月
津市染色組合	〃 釜屋町	〃	〃
津市砂糖商組合	〃 分部町	〃	安政元年
津市呉服商組合	〃 宿屋町	〃	明治四十二年五月
津市足袋商組合	〃 萬町	〃	大正十一年
津市藥業組合	〃 分部町	〃	明治四十二年六月
津市履物商組合	〃 京口町	〃	〃 五月
津市傘製造業組合	〃 東町	〃	〃 二十六年七月
津市菓子商組合	〃 大門町	〃	〃 十五年一月
津市洋物商組合	〃	〃	〃 二十八年五月
津市古物商組合	〃 東町	〃	〃
津市小間物化粧品商組合	〃 中之番町	〃	昭和三年九月
津市酒類販賣業組合	〃 東町	〃	明治四十一年九月
津市文具商組合	〃 伊豫町	〃	〃 四十三年九月
津市雜穀商組合	〃 西之口出屋敷	〃	大正十年九月
津市安濃搗小賣人組合	〃 岩田町	津市、安濃	

安濃津陶磁器商組合	〃 東町	〃	大正十三年二月
津市籐業組合	〃 伊豫町	〃	
津市漆工業組合	〃 丸之内本町	津市、安濃、一志	
津市白米輸出商組合	〃 西之口出屋敷	津市	明治四十二年三月
津市表具師組合	〃 西町	〃	大正八年一月
津市安濃白米小賣商組合	津商工會議所	〃	明治四十五年二月
津市建築業組合	〃 山之瀬古町	〃	安政元年正月
津市銅鐵商組合	〃 大門町	〃	
津市質屋組合	〃 藤枝町	〃	大正十二年一月
津市漁業組合	〃 中河原	〃	
津電動力使用者組合	〃 下辨財町	〃	
津市材木商組合	〃 常磐町	〃	
津市漆器荒物商組合	〃 伊豫町	〃	
津市麵類商組合	〃	〃	
津市銅器製造業組合	〃 八幡町	〃	
津市、安濃活版業組合	〃 丸之内本町	〃	
津蒲鉾商組合	〃 南濱町	〃	
津市三業組合	〃 京口町	〃	
津市タオル商組合	〃 下部田	〃	
津市乾青商組合	〃 立町	〃	大正十四年

津市書籍商組合	津市伊豫町	津市	大正十一年八月
津市竹工業組合	〃 釜屋町	〃	〃
津市銅鐵細工商組合	〃 常磐町	〃	〃
津寫眞業組合	〃 地頭領町	〃	〃
津市餅商組合	〃 萬町	〃	〃
津市硝子商組合	〃 立町	〃	〃
津市食料品商組合	〃 地頭領町	〃	〃
津市茶商組合	〃 京口町	〃	〃
津市ゴム製品商組合	〃 分部町	〃	〃
津市手藝材料商組合	〃 立町	〃	〃
津市時計商組合	〃 京口町	〃	〃
津市玩具商組合	〃 東町	〃	〃
津市靴中敷商組合	〃 下部田	〃	〃
三重縣銀行集會所	〃 大門町	〃	〃
三重縣同盟銀行會	〃	〃	〃
津商工同盟會	津商工會議所	〃	〃
津市CKラヂオ商組合	津市萬町	〃	〃
津市綿業組合	〃	〃	〃
津市電業組合	〃 分部町	〃	〃

津市糸物商組合	〃 伊豫町	〃	昭和九年九月
津市造醬組合	〃 極樂町	〃	〃 十一年二月
津市輸出品製造業組合	津商工會議所	〃	
津市鐵工業組合	津市丸之内蔦町	〃	

官公衙

名稱	位置	電話番號
三重縣廳	中茶屋町	一一〇四三一
安濃津地方裁判所	丸之内殿町	一一二九五
安濃津區裁判所	〃	一一二三一九五
安濃津供託局	〃	一一二三一九五
津市役所	西町	二四九七
津市立病院	榮町	八三九〇
津市立傳染病院	中河原	八八
津聯隊區司令部	西堀端	一六三
津憲兵分隊	西阿漕町	二五一
津警察署	大門町	四九六

名稱	位置	電話番號
津稅務署	丸之内本町	二三五〇
津郵便局	丸之内本町	一一八〇
津上濱町郵便局	上濱町	一一八〇
津驛前郵便局	下部田	
津藤枝郵便局	藤枝町	二六
津塔世橋郵便局	榮町	一一〇二
津大門町郵便局	大門町	一一六
津伊豫町郵便局	伊豫町	一一〇三
津阿漕郵便局	船頭町	七五九
津八町郵便局	八町	

三重縣工業試驗場	下部田	四八二
三重縣蠶業試驗場	藤方	三一八
三重縣津測候所	柳山	一五八
三重縣洞津病院	〃	四五七
三重刑務所	櫻ヶ岡町	八

學校

名稱	位置	電話番號
三重高等農林學校	上濱町	長九五六
三重縣立師範學校	丸之內殿町	一六二
三重縣立津中學校	刑部	一五七
三重縣立津高等女學校	柳山	一三四
三重縣立盲啞學校	下部田	三六六
津市立勵精中學校	市外神戶村半田	九四五
〃勵精商業學校	〃	九四五
津市立高等女學校	丸之內本町	八五九
〃工藝學校	愛宕町	九〇九
〃高等公民學校	古河	七四三
三重縣國兒學園	市外栗眞村町屋	四八一
歩兵第三十旅團司令部	市外久居町	七三
歩兵第三十三聯隊本部	市外久居町	四
津衛戍病院	〃	四三

名稱	位置	電話番號
津市養正尋常小學校	丸之內本町	四六三
〃恭和尋常小學校	中河原	一八〇
〃修成尋常小學校	宮之前	七四七
〃立誠尋常小學校	下部田	八三三
〃知敬尋常小學校	中河原	九一〇
〃育生尋常小學校	下辨財町	九三三
〃新町尋常高等小學校	刑部	八八八
〃藤水尋常高等小學校	藤水	
三重縣立師範學校附屬小學校	丸之內殿町	七五

鐵道

名稱	位置	電話番號
津驛	下部田	九
阿漕驛	西阿漕町	一〇
參宮急行電鐵株式會社津驛	下部田	一四一
〃津新町驛	八町	一〇九
伊勢電氣鐵道株式會社津新地驛	新東町	六七

名稱	位置	電話番號
伊勢電氣鐵道株式會社津驛	下部田	一二九六
〃結城神社前驛	八幡町	
中勢鐵道株式會社岩田橋驛	船頭町	二一二
〃阿漕驛	西阿漕町	
安濃鐵道新町驛	刑部	六六二

新聞社通信部

名稱	位置	電話番號
伊勢新聞社	丸之內本町	一八七〇
三重縣民新聞社	下部田	一〇一〇
名古屋新聞三重支局	常磐町	長六六〇
新愛知新聞津支局	下部田	一六八八
大阪朝日新聞津通信部	常磐町	六三三
大阪毎日新聞津通信部	下部田	一三七
津通信社	釜屋町	九〇六
報知新聞通信員駐在所	下部田	

興信所

名稱	位置	電話番號
帝國興信所津支所	分部町	七五六
東京商業興信所津支所	山之瀨古町	一二一〇
商業興信所三重出張所	北町	一二三五

津商工會議所議員及役員

役員

會頭	田中林助	
副會頭	後藤仁兵衛	
常議員	川喜田四郎兵衛	
同	中川藤右衛門	
同	森田庄三郎	

議員

（議席順）

常議員	小島朋男	
同	天春源太郎	
同	加藤長次郎	
同	川井文五郎	
理事	久岡觀	

職業	住所	電話	氏名
米穀商	新道	五三八	寺島藤左衛門
材木商	船頭町	店 四九〇 宅 一五六〇	國分市太郎
荒物商	伊豫町	一六〇八	山川幾太郎
呉服、洋反物商	宿屋町	三五七	中川藤右衛門
有價證券現物問屋	中之番町	會社 二〇 宅 二七一	株式會社岡村商店代表者 岡村勘兵衛
青物問屋	立町	店 五〇二 宅 五一〇	天春源太郎
肥料商	八町	一六四 一六六	稻垣勘四郎
和洋紙商	分部町	一六九	三藤重男
指物商	丸之内本町	六三七	梅田勇次郎
肥料商	京口町	店 二二 宅 四七〇	小島合名會社代表者 小島惣右衛門
肥料商	築地町	三五二	久世卯兵衛
會社重役	下部田	長 六七〇 五七〇	おぼろタオル株式會社代表者 森田庄三郎
呉服商	丸之内殿町	店 四二八 宅 一〇六四	小菅利三郎
皮革商	常磐町	六一三	河邊房吉

材木商	常磐町	會社	九九六	合資會社八田材木店代表者 八田新五郎
會社重役	東檢校町	宅	五四〇	
米穀、肥料商	築地町	會社	三四	關西製絲株式會社代表者 小島朋男
		宅	三八九	
荒物商	榮町	會社	五五	株式會社築地川喜田商店代表者 川喜田四郎兵衛
		宅	五五二	
醬油釀造業	極樂町		五三四	田中三七郎
和洋紙商	京口町		一三〇	後藤仁兵衛
旅館、料理業	京口町		二五	村田眞一
青物乾物商	千歲町		一二〇	齋藤伊藏
染料商	八幡町	宅	三七六	瀨古尊勝
海產物商	片濱町	店	一七二五	加藤長次郎
			三一三八九	
會社重役	南堀端	會社	四三三	株式會社津魚市場代表者 川井文五郎
		宅	七六六	
海產物商	魚町		九一二	合同電氣株式會社代表者 筒居信郎
菓子商	中之番町	會社	六三	羽田貞吉
		宅	一四	
活版、印刷業	乙部		一〇〇四	岩脇利吉
			一〇九九	堀川茂三

米穀、肥料商	西ノ口出屋敷		六六一	田中林助
會社重役	安濃郡神戸村半田	會社	六五一	株式會社百五銀行代表者 雲井憲二郎
		宅	一〇五	
洋物雜貨商	大門町		六六一	合名會社自銀屋洋物店代表者 倉田喜太郎
運送業	下部田		二〇六	津市合同運送株式會社代表者 淺沼長次郎
			五三	
材木商	神納		九二二	谷口榮藏
綿商	西新町		三四九	小野萬次郎
米穀商	南堀端		三四〇	合名會社三宅商店代表者 三宅勝吉
			一〇八八	

顧問

三重縣經濟部長	津市塔世西裏		三七〇
津市長	〃 乙部		一七三
株式會社百五銀行頭取	〃 垂水千歲山	長	六三八
株式會社三重縣農工銀行頭取	一志郡雲出村伊倉津	矢野	五
醬油釀造業	津市岩田町		一六八

松木茂一
堀川美哉
川喜田久太夫
小林嘉平治
山本太兵衛

市會議員

住所		氏名	住所	氏名
乙部	議長	堀川茂三	丸之內鯉堀	旭
乙部	副議長	金子憲三	萬町	實
伊豫町		玉井實藏	柳山	杉山惣七
乙部		中條周吉	伊豫町	田川清松
中河原		桑名三平	榮町	酒井萬馬
餘慶町		青木右七	中河原	岡長三郎
柳山	參事會員	增喜米雄	丸之內泉町	山口利喜雄
西新町	〃	小野萬次郎	下部田	水谷茂三
常磐町		八田新五郎	一番町	栗田則文
新東町		小澤清次郎	極樂町	永井庄太郎
伊豫町		岡本千代治	上濱町	赤塚宗一
丸之內綠町		濱田鹿藏	〃	竹尾研三
八幡町		石川清吉	新東町	丸橋正一
千歲町	參事會員	瀨古尊勝	相生町	增田勝藏
西新町		別所欽二	野崎垣內	三谷祇賀
相生町	參事會員	松下清太郎	丸之內泉町	永合壽

縣會議員

住所		氏名	住所	氏名
一志郡		杉本英一	安濃郡	藤谷茂郎
桑名郡		青木銀三郎	三重郡	後藤善之助
南牟婁郡	縣參事會員	松本松太郎	松阪市	西川市太郎
宇治山田市		濱地文平	名賀郡	岩名秀松
北牟婁郡		西田常藏	一志郡	松本一郎
南牟婁郡		谷川儀市	三重郡	石垣重彥
員辨郡		林杢兵衛	多氣郡	土屋忠
鈴鹿郡	縣參事會員	佐藤邦則	三重郡	川村貢
四日市々		宮田小右衛門	四日市市	山本源助
阿山郡		馬岡次郎	度會郡	大井幸太郎
津市		堀川茂三	飯南郡	田村稔
北牟婁郡	縣參事會員	平井茂八郎	宇治山田市	富澤淳
多氣郡	〃	岡山勝三	河藝郡	永井久兵衛
河藝郡	〃	早川俊一	名賀郡	富永貞英
度會郡	〃	小切間重三郎	志摩郡	濱口吉五郎

上辨財町　參事會員　小林茂平　下部田　參事會員　大原周治

一志郡　小野耕一郎　宇治山田市　阿竹齋次郎
津市　三谷祇賀　桑名郡　水谷昇
志摩郡　石原圓吉　飯南郡　龜井正雄
鈴鹿郡　小龜衡一　阿山郡　福島吉五郎

貴族院議員

縣參事會員

多額納税者勅任議員

小林嘉平次

衆議院議員

第一區選出

加藤久米四郎　第二區選出　尾崎行雄
〃　片岡恒一　〃　角源泉
〃　服部米次郎　〃　濱田國松
〃　川崎克　〃　長井源
〃　松田正一

所得税調査委員

津市西之口出屋敷　田中林助　津市丸之内泉町　永合壽
〃　乙部　金子憲三　〃　下部田　小西清三郎
〃　八町　稲垣勘四郎　〃　地頭領町　梅本宗二郎
〃　千歳町　瀬古尊勝

商事調停委員

津市西之口出屋敷　田中林助　津市宿屋町　中川藤右衛門
〃　極樂町　後藤仁兵衛　〃　岩田町　山本太兵衛
〃　餘慶町　伊藤安之助

金錢債務臨時調停委員

津市丸之内本町　貝增萬壽吉　津市一番町　高本秀通
〃　玉置町　濱田幹　〃　下部田　寺田恒太郎
〃　西檢校町　奥林和夫　〃　西之口出屋敷　田中林助
〃　玉置町　山田寛　〃　極樂町　後藤仁兵衛

廣

告

劇場其他

津市餘慶町	伊藤安之助	津市下部田	佐藤鐵次郎
〃藏町	岡宗太夫	〃宿屋町	中川藤右衛門
〃丸之内本町	梅田勇次郎	〃岩田町	山本太兵衛
〃地頭領町	松島善太郎	〃〃	丸山伊三郎
〃下部田	山本恒一郎	〃八幡町	倉田金十郎
〃大門町	松田甚十郎	〃藤枝町	杉本嘉藏
〃東檢校町	須山榮	〃古河	落合光藏
〃枕町	村上正世	〃〃	服部銀藏
〃上辨財町	筒居信郎	〃〃	中西集平

劇場

曙座	（大門町觀音境内）	八三五
都座	（上濱町）	亨樂キネマ（大門町觀音境内）
末廣座	（綿内町）	新世界（丸之内本町）
		朝日座（〃）

活動寫眞常設館

八九八	
九五一	
三四六	

廣告目次

業種別	氏名又ハ商號	
洋服、雜貨商	饗丁子屋商店	一
洋品、百貨商	すがたや洋品店	二
青果問屋	天春商店	三
ホテル料理業	中津軒ホテル	四
玩具商	島地松之助	五
銀行業	三重縣農工銀行	六
醬油製造業	橋本醬油店	七
洋品、雜貨商	鈴木屋	八
手藝材料商	西田商店	九
印判業	精巧堂印房	一〇
麻製靴中敷商	昭和工場	一一
料理、旅館	大觀亭	一二
倉庫業石炭	津市倉庫株式會社	一三
旅館、料理業	加喜伊	一四
米穀商	合名會社三宅商店	一五
呉服商	中川屋本店	一六
醬油製造業	後藤仁兵衛	一七
履物、雨傘	萬屋履物店	一八
調査機關	東京商業興信所津支所	一九
ミシン機賣買業	三洋ミシン商會	二〇
呉服商	白銀屋呉服店	二一
海運業	太田回漕店	二二
諸印刷	弘陽印刷株式會社	二三
皮革商	河邊房吉	二四
肥料業	稻垣勘四郎商店	二五
醬油製造業	藤澤茂右衛門	二六

株式賣買現物問屋
茶商
運輸業（自動車）
米穀商
料理、旅館業
煎餅
建築材料商
食料品商
銀行業
竹細工商
醬油製造業
活版印刷業
アコギ煮
鷄卵商
眼鏡、時計商
防水布商
紙、砂糖、疊表商
新聞販賣業
電氣
醬油製造、和洋酒問屋
漁網製造業
染物商
綿糸製造
油商
料理業
和洋紙商
銀行業
海產物商
荒物、雜貨商
海產物商
藥種商
毛糸製造
硝子商
自動車販賣業
寫眞業
銀行業
運輸業（自動車）
料理、旅館
塩元賣捌
酢製造業
運輸
酒類問屋
肥料商
製粉業
洋品雜貨商
家具指物、室內裝飾商
調査機關
旅館
自轉車商
株式現物問屋
生糸、蠶種製造
煎餅商
運送業
木材、土木建築請負業
料理、喫茶
砂糖、麥粉、綿糸、石油
金融業
銀行業
株式現物問屋
銀行業
料理
木材建築材料
肥料、米穀商

㈱岡村商店……二七
山本松竹園……二八
津運送店……二九
寺島藤左衛門……三〇
ぼたん……三一
平治煎餅……三二
國分共同合資會社……三三
土屋商店……三四
三重共同貯蓄銀行……三五
中森竹林堂……三六
松金醬油店……三七
粟活版所……三八
魚久本店……三九
菊山鷄卵出荷部……四〇
村山眼鏡店……四一
前田防水布店……四二
富島商店……四三
太光堂新聞舗……四四
合同氣電㈱津支社……四五
山本太兵衛商店……四六
內外製網株式會社……四七
高橋芳太郎……四八
岸和田紡績㈱津工場……四九
川北佐平治……五〇
東洋軒……五一
村田紙店……五二
日本貯蓄銀行津支店……五三
鈴木九藏商店……五四
田中節次郎……五五
羽田貞吉……五六
水谷ゴム店……五七
分部寅吉……五八
錦華毛糸株式會社……五九
㈲白銀屋硝子店……六〇
三重モータース株式會社……六一
長谷川寫眞舘……六二
不動貯金銀行津支社……六三
小野自動車部……六四
櫻水樓……六五
北勢塩業合資會社……六六
山二造酢株式會社……六七
參宮急行電鐵株式會社……六八
㈲丸山酒店……六九
小島合名會社……七〇
鈴木製粉所……七一
㈲白銀屋洋物店……七二
梅田勇次郎商店……七三
㈱帝國興信所津支所……七四
松阪屋旅館……七五
安濃津自轉車商組合……七六
奥田證券合名會社……七七
關西製絲株式會社……七八
中勢堂……七九
津市合同運送株式會社……八〇
谷半材木店……八一
喫茶富士……八二
㈲名會社太田商店……八三
有限責任津信用組合……八四
勢南銀行津支店……八五
柴田定次郎商店……八六
㈱愛知銀行津支店……八七
內喜亭……八八
國分市太郎商店……八九
㈱築地川喜田商店……九〇

菓子商　前田屋菓舗……九一
靴中敷商　近藤商店……九二
精米、薪炭商　波瀬屋商店……九三
製菓　明治製菓㈱三重販賣所……九四
瓦斯供給　合同瓦斯株式會社……九五
麹製造　伊勢醤油工業組合……九六
石版　津石版社……九七
竹細工商　森田庄藏商店……九八
自轉車商　金兒自轉車商會……九九
綿商　綿万商店……一〇〇
醤油味噌製造　丸山文七……一〇一
藥種、染料商　鈴加藤商店……一〇二
荒物、雜貨商　田中三七郎……一〇三
陶磁器商　川口文右衛門……一〇四
金銀細工商　宮崎定正……一〇五
魚市場　㈱津魚市場……一〇六
料理　水月……一〇七
銀行業　㈱百五銀行……一〇八
荒物、雜貨商　山川本店……一〇九
活版印刷業　秀陽社印刷所……一一〇
釀造業　高井作右衛門……一一一
肥料、米穀商　田中林助商店……一一二
綿織物製造　富田金七……一一三
呉服商　岡田屋呉服店……一一四
材木商　鈴八田材木店……一一五
油商　鈴三田商店……一一六
運輸業（自動車）　津乘合自動車株式會社……一一七
金物商　村田和七商店……一一八
呉服商　すがたや呉服店……一一九
製靴業　山田靴店……一二〇
人造絹糸　三重人造絹糸株式會社……一二一
菓子商　九華堂……一二二
鐵工業　石川鐵工所……一二三
旅館料理　聽潮館……一二四
洋服商　㈱松田洋服店……一二五
旅館、料理　濱荻……一二六
タオル製造　おぼろタオル株式會社……裏表紙

創業慶應三年

各地營業所
大阪・京都・名古屋・新宮・
京城・釜山・平壤・元山・
新京・大連・奉天

營業種目

高級洋服
洋服附屬品
洋品雜貨
婦人子供雜貨
呉服
化粧品
婦人服及附屬品
内外煙草

明るいいい店
買よい

株式會社 丁子屋商店

津市大門町
電話 穴一番 八七五番

流行
洋品
百貨

すがたや洋品店

津市大門通り地頭領町
電話八一一番

青物
果實

問屋

天春商店

三重縣津市片濱町

雜貨部　煙草店特賣品元賣所
電話五〇二番
自宅津市立町
電話五一〇番

中津軒ホテル

茶代廢止

洋室十數室
和室數室

御室料

一泊 ¥ 2.00
¥ 3.00

御憩休 ¥ 1.00

サービス料
御勘定ノ一割

大衆向和洋食堂
御宴會場（百五十人樣位迄）
大、小、和洋室十數室
其他休憩室、浴室等ノ設備アリ

津市丸之内本町
經營者 中田豊應
電（三四二番）
（一六五一番）

別館 同市海岸通
電三五五番

◎預金の部

債券應募特約預金
定期預金
當座預金
特別當座預金
通知預金

◎貸出の部

年賦貸付
定期貸付
無抵當貸付
有價證券擔保貸付
（大藏大臣指定の證券）
當行債券擔保の手形貸付

本店津市萬町

株式會社 三重縣農工銀行

各支店所在地
桑名、大泉原、四日市、亀山、神戸、久居、松阪、山田、上野、名張、鳥羽、尾鷲、木ノ本

橋本醬油店

橋本醬油店
上浜町
電話一一三
電信振替
大阪二四三一一番

洋品雜貨專門店 鈴木屋

製造部　津市乙部町四二九　電話八四二番

仕入部　大阪市東區龍造寺町一番地　電話船場四六四七番

總本店　津市分部町　電話三五九番　八四二番

サービス部　津市大門町　電話一、五一一番

支店　四日市市西中町　電話九四七番

山田市高柳通り

京城府本町一丁目　電話一、〇八七番

營業種目

刺繍　袋物　押繪　摘ミ細工
染料工業藥品　青花
レース　ビーズ　釦　ホック
裁縫用具　花鋏　帛紗　薄絹
毛糸　人絹　組紐　飾房　服地

プリント染料（蒸熱不用）
クローバフエザー毛糸
チエリーランド人絹刺繍糸
ワンダー生地織

發賣元

西田商店

津市立町
電話七七二番
振替大阪二九八三〇番
名古屋五三九五番

ENGLISH	SIZES MAN	40—46
	SIZES WOMAN	36—42
	SIZES CHILDREN	16—23
AMERICAN	SIZES MAN	6—11
	SIZES WOMAN	2— 7

南洋及印度向　34—42

専賣特許實用新案願
コツトンフエルト
コツトンスキン
コツトンコルク
靴中敷總發賣元
内地及支那向
露西亞向
陸軍專用
海軍專用
地下足袋用
均一品
ヘチマ印

世界を風靡する日本の雜貨業界をリードする昭和中敷年產五拾萬打は何れに跳躍するや

津市
昭和工場
振替口座名古屋二八〇一番
マニラ
ラシヤ
靴敷革生產場

資本金拾五萬圓

創立　大正拾參年七月

津市船頭町

津市倉庫株式會社

倉庫用　電話　三〇一番
石炭用　電話　一一八番

宇治山田市川崎河岸
山田支店
電話八〇七番

四日市市寅高入
四日市支店
電話九六三番

旅館　御料理

合名會社

大觀亭

津市入江町

電話　長六六番
五七五番

御料理

御旅館

加喜伊

津市京口町二〇番
電話五五八番

陸軍御用達

玄米問屋
並ニ精米
精麥業

合名會社 三宅商店

代表社員 三宅勝吉
津市南堀端
電話 長三四〇番
一〇八八番
電略(〇カ)又ハ(〇)

御婚禮衣裳

吳服商

中川屋本店

津市紺屋町
電話三五七番
振替大阪一二二〇三番

季節向新柄取揃

登録商標

純良
醤油

津市
後藤仁兵衛醸造

味噌溜製造

後藤仁兵衛

津市極樂町
電話一三〇番

履物と雨傘

吉

津市役所南

萬屋履物店

野田吉藏

調査機關

東京商業興信所

津支所

津市山之瀨古町
電話一、二一〇番

創立明治四十一年

（本所）東京丸ノ内
大阪堂島

（支所）全國樞要都市
五拾餘箇所

業務

個人資産信用
會社商店内容
結婚人事身元
其他調査事項

調査

◆各特別調査の御用命に應ず

絶對責任

日本ブラザーミシン會社

三重縣總代理店

工業用
家庭用
産業用
ーガンシ

ミシン

三洋ミシン商會

賣買

（ミシンに關する一切の業務相談に應ず）

創業明治四十一年

出口俊道

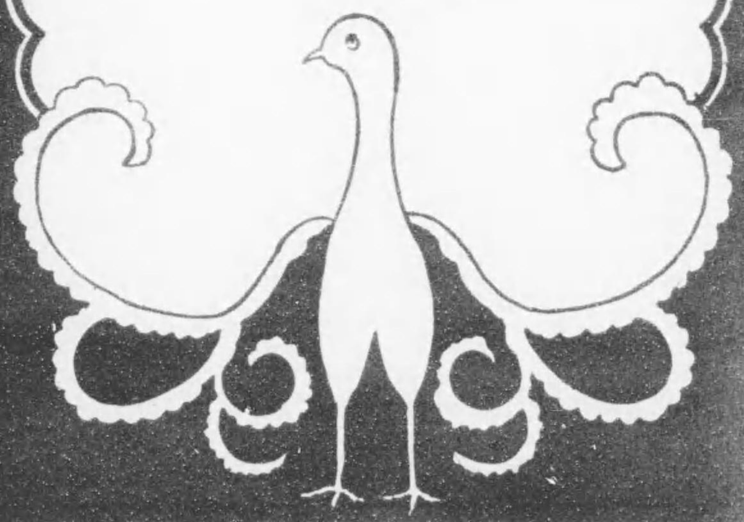
津市立町

白

津市大門町

白銀屋呉服店

電話 一〇〇三 四九二四



大阪商船株式會社津荷客扱店
攝陽商船株式會社津荷客扱店

津港 太田回漕店

店主 太田茂兵衛

電話三五番

弘陽印刷株式會社

津市丸之内本町
電話四二五番
振替口座名古屋九二九九番

營業種目

各種・印刷
寫眞銅版・凸版
和洋式帳簿製本

◆海外各地へ輸出せる當地の一大産物たり
◆各種類あり御申越により見本送呈可仕候

津市マニラ麻中敷製作所

三重縣津市常磐町（市役所通）

河邊房吉商店

電話六一三番
振替口座大阪三〇二四六番

ラシヤ
マニラ麻ヒコーキ印中敷

M. S. K's Gasoline
Motor Oils
Ke losine
etc

多木肥料

三重縣代理店
稲垣勘四郎商店
津市八町
電話五六四番　受信番號（ツ・イナガキ）

稲垣商店出張所
（詰南橋田岩町造船所元）
電話一六一番

登録

創業慶應元年

商標

醬油

和合酢

三重縣津市南濱町

藤澤茂右衛門釀造

（支店伊賀上野東町）

株式・公債・社債

公債社債株式現物賣買の御用は信用第一誠實懇切を營業方針とする當店を御利用願上候

有價証券現物賣買
公市社債募集引受

津市中之番町

株式會社 岡村商店

電話（二〇番）（二二三番）一九八番
五三六番七五五番二七一番
振替口座大阪一四八四〇番
電信略語（ヲカムラ）又ハ（ヲ）

松阪出張所

松阪市日野町八雲小路
電話五一〇番五三〇番

現物問屋

神風薫る伊勢名物御茶

宇治茶
伊勢茶
茶道具
一式

京都、大阪、神戸方面自動車急送
市内婚禮、引越貸物自動車運送 取扱

參宮線津驛前

津運送本店

㊐㊞ 加盟

秋山友太郎

電話九〇三番

營業所
津市東町
津新地驛構内
阿濃驛前支店
電話一、一六五番

米穀商

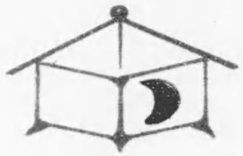
寺島藤左衛門

津市新道

電話五三八番

御料理

旅館



牡丹

津市乙部町

電話九九七番

名物

平治煎餅

本店 津市立町

電話七六番

振替名古屋八九七〇番

營業種目

材木各種
建築材料
石灰各種
[illegible]

一手販賣

KO

國分共同合資會社

津市乙部町

電話三一六番

質を誇る

土屋茉莉

津市大門通

土屋本店

電話三七八番

株式會社

三重共同貯蓄銀行

津市大門町

頭取 川喜田久太夫

電話 三七八番 八五七番

代理店 百五銀行本支店

津名産

竹細工人形

各遊覽地おみやげ品
こして御注文に應ず

中森竹林堂

津市乙部海岸通七丁目

元造醸油醤

松

松金醤油店

津市八幡町

辻金兵衛

電話三二番

振替口座東京一八〇七五

印刷の御用命は
津市西裏通り
栗活版印刷所へ
電話
一三四九番
（イン サツ シ キュウ）

津名産
アコギ煮
時雨蛤
鮑粕漬
海産珍味
アコギ煮本舗
魚久本店
津市地頭領町
電話八六六番

出荷

商標

菊印鶏卵

伊勢特産
品質優良

津市丸之内泉町

菊山鶏卵出荷部

電話四七三番
振替大阪一七四四九番

營業種目

各眼鏡類
雙眼鏡類
金銀時計及
附屬品
純金指環
寶石指環
其他貴金屬品
計量器(寒暖
計、体温計)
パイロット
万年筆

各眼科病院指定眼鏡調製所

津市京口町

村山眼鏡店

店主 村山佐助

電話七二五番
振替口座大阪三七六一二番

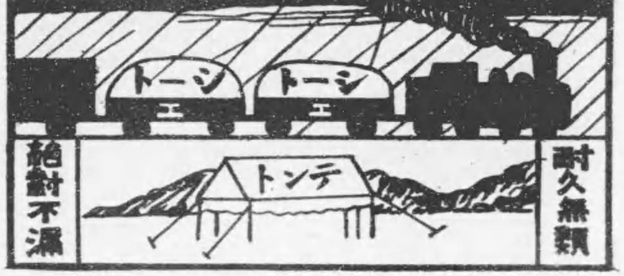
アルス受信機
ビクターレコード及び附屬品の御用命は

津市京口町

村山蓄音器店

電話七二五番

前田式防水シート



防水布テント三重物産當選
前田式防水雨覆製造元

荷車船舶シート
雨具將校マント
自動車用ホロ地
漁農業用雨着
各種防水布製造
各種ズック加工
各種テント

津市地頭領町（大門町通り）

前田防水布商會

電話一、二九七番
振替名古屋一一八九三番
電略（マエ）又ハ（マエタ）
取引銀行（百五銀行本店 愛知銀行津支店）
互協 關西線高茶屋、電香良洲四六番

紙類
砂糖
疊表

津市中茶屋町
富島商店
電話五八番

大阪毎日新聞
東海版廣告取扱

愛知新聞
津專賣所
津市廣小路

大光堂新聞舗
店主 青木濤次郎

津市西町
電話六六八番

東京新聞各種

サンデー毎日

合同電氣株式會社
津支社
三重縣津市南堀端